

東京都多摩地区教育推進委員会 第31次計画（通算第52年次） 報告書

# 主体的に学習に取り組む子供の育成 ～デジタルを活用した学習活動を通して～

「バランス×仕掛け×場づくり」で  
学習者の主体性を引き出す

令和8年2月

東京都多摩教育事務所

# 目次

## 基本的な考え方

I 研究主題	1
II 研究の背景	2
III 研究の概要	3
IV 研究概要図	4

## 研究の内容

◆ 実践事例の読み方	5
◆ 実践事例	
<1> 小学校 国語 第6学年	6
<2> 小学校 社会 第5学年	8
<3> 小学校 算数 第4学年	10
<4> 小学校 理科 第6学年	12
<5> 小学校 音楽 第4学年	14
<6> 小学校 図画工作 第5学年	16
<7> 小学校 体育 第6学年	18
<8> 小学校 外国語 第6学年	20
<9> 小学校 特別活動 第2学年	22
<10> 中学校 国語 第3学年	24
<11> 中学校 社会 第2学年	26
<12> 中学校 数学 第1学年	28
<13> 中学校 理科 第3学年	30
<14> 中学校 音楽 第2学年	32
<15> 中学校 美術 第1学年	34
<16> 中学校 保健体育 第2学年	36
<17> 中学校 外国語 第2学年	38
<18> 中学校 特別の教科 道徳 第1学年	40



## 特別委員資料

◆ デジタルを活用して主体的に学習に取り組む子供を どう育成するか	42
--------------------------------------	----

## 研究のまとめ

◆ 研究のまとめ	44
----------	----



東京都多摩教育事務所  
東京都多摩地区教育推進委員会Webページ

報告書等のデータを掲載しています。

## 基本的な考え方

### 令和7年度東京都多摩地区教育推進委員会運営方針

「教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形である\*1」を前提とし、地区・校種・教科等を超えたコミュニティの中で、委員が主体的に対話を重ねながら、委員自らが授業を見直し、目指す子供像及び教師像に迫る授業づくりの過程を報告できるようにする。



\*1 令和4年12月19日 中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～』

## I 研究主題

### 研究主題

### 主体的に学習に取り組む子供の育成 ～デジタルを活用した学習活動を通して～

#### 目指す子供像

自ら学習を調整しながら、主体的に学習に取り組む子供

#### 目指す教師像

子供一人一人の学びの状況を取り入れながら単元（題材）をデザインし、子供の主体性を引き出す教師

## II 研究の背景

### 生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力の育成

- ・ 「人生 100 年時代」の到来や労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換により、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増しています。
- ・ 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が多くなっています。

(令和 6 年 12 月 25 日 中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」)

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育てため、

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence)
  - ② 多様性の包摂 (Equity)
  - ③ 実現可能性の確保 (Feasibility)
- の 3 つの方向性を踏まえて議論を行う。

(前略)「主体的・対話的で深い学び」の実装は、次期学習指導要領に向けた第一の方向性とすべきものである。

(令和 7 年 9 月 25 日 中央教育審議会「論点整理」)

生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成が一層求められている。

### デジタルの活用を前提とした、資質・能力の育成

- ・ ICTの活用により新学習指導要領を着実に実施し、学校教育の質の向上につながるためには、カリキュラム・マネジメントを充実させつつ、各教科等において育成を目指す資質・能力等を把握した上で、特に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくことが重要である。
- ・ (前略) 児童生徒自身が ICT を「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要である。

(令和 3 年 1 月 26 日 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」)

- ・ デジタルの力を活用し、子供が、何をどのように学ぶかといった学びのプロセスを自ら決定し、物事を比較・分類するなどの思考スキルを身に付けられるよう、学び方そのものを転換
- ・ AI が急速に進展。端末や通信環境の整備といった単なるデジタル化の段階から、AI 等を活用した学びを日常とするステージへ

(令和 7 年 3 月 「東京都教育施策大綱」)

ICT が教具的発想に留まるのではなく、子供たちがデジタルを主体的に活用し、学びのプロセスを自ら決定しながら、思考スキルを身に付けるなど、新しい時代にふさわしい資質・能力の育成が求められている。

### 子供たちの主体的な学びの支援・伴走への教師の役割の転換

- ・ 審議まとめでは、「新たな教師の学びの姿」として、
  - 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」
  - 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「継続的な学び」
  - 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「個別最適な学び」
  - 他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」
 を示した。

- ・ (前略) 主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルである。「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学びの転換とともに、教師自身の学び(研修観)の転換を図る必要がある。

(令和 4 年 12 月 19 日 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」)

子供たちの学びを転換するには、教師自身の学びを転換する必要がある。

教師自身が探究心をもちつつ他者と協働しながら、自律的に学ぶなど、「新たな教師の姿」が求められている。

### Ⅲ 研究の概要

#### 子供の主体的な学びを促す単元（題材）デザイン

令和6年度の研究に基づき、習得と探究をつなぐ単元（題材）デザインを踏まえ、教師が

- ・ 「なぜ学ぶか」
- ・ 「何を学び、何ができるようになるか」
- ・ 「どのように学ぶか」
- ・ 「どのように生かすか」

の4点を明確にしたうえで、単元（題材）を構想することにより、資質・能力を育成できると考えた。

単元（題材）全体を通して授業を構想することにより、子供が自ら学習を調整する機会を増やし、主体的に学習に取り組むことができるようにした。

前半の検証授業の考察から、単元（題材）終了時の子供の姿（ゴールイメージ）を想定して考える「授業デザインシート」（P.46 参照）を作成し、授業を行った。本シートは、単元（題材）の最終時から計画を考える構成にした。

また、本シートは、教師が何をどう教えるかではなく、子供が何をどのように学ぶかという視点で単元（題材）全体を通して授業を構想するようにした。

#### 子供が自ら学習を調整し、主体的に学ぶためのデジタルの活用

子供が自ら学習を調整するために、以下の視点からデジタルの特徴及び強みを生かして実践を行った。

- ・ 学習に見通しをもつ
- ・ 目標に向かって活動し、学習活動を振り返る
- ・ 自身の学びの状態を把握する
- ・ 学び方を選択する

また、単元（題材）をデザインする段階で、デジタルを活用しながら自ら学習を調整する子供の具体的な姿を明らかにした。

校種や教科等が異なる委員4～5人でグループを編成し、実践後は、授業内における子供の姿と教師の姿について協議し、デジタル活用の効果や環境設定の有効性を検証した。

習得の段階で身に付けた力を探究の段階で活用することや、探究の段階での必要感、気付き等に応じて習得の段階と往還することを示している。

#### オープン＆フラットな環境の中で考える、子供に学びを委ね、伴走する教師

教師が子供に学びを委ね、伴走する際に大切なことは、以下の視点であると考えた。

- ・ 子供が安心して自分の意見を表出しながら学ぶことができる環境を整える
- ・ 子供一人一人の学びの状況を把握して単元（題材）をデザインする
- ・ 単元（題材）の目標を達成することができるよう、支援や助言等をする

子供に学びを委ねるためには、教師自身にも任せられる経験や自ら決める経験が必要であると考えた。そこで、定例会や協議会において、委員が意見を表出する機会や委員同士で意見を交わす機会を多く設定し、指導主事は委員の伴走者として機能するようファシリテーターとしての役割に徹した。

定例会後は委員に対し、定例会の運営についてのアンケートを行い、次回の定例会の場づくりに生かせるようにした。

委員の意見を基に、オープン＆フラットな環境の中で自由に意見を交わし合いながら、子供に学びを委ね、伴走する教師の在り方や検証授業を考えることができるようにした。教師自身が、子供のロールモデルとなるよう、主体的な学びの場となる運営を工夫した。

習得の段階

つなぐ

探究の段階

なぜ学ぶか

何を学び、何が  
できるようになるか

どのように  
学ぶか

どのように  
生かすか



自ら学習を調整しながら、主体的に学習に取り組む子供



最終時から考える単元（題材）デザイン

バランス

仕掛け

場づくり

発達段階を考慮した  
単元（題材）デザイン

確実な

習得

能動的な

つなぐ

探究



なぜ学ぶか

何を学び、何が  
できるようになるか

どのように学ぶか

どのように生かすか



自分の学びを調整する  
ことができる環境

他者との対話や協働を  
通して学びを深める  
ことができる環境

自ら学習を調整しながら、  
主体的に取り組むための活用



デジタルの活用



子供一人一人の学習の状況  
を把握するための活用



子供一人一人の学びの状況を取り入れながら単元（題材）をデザインし、子供の主体性を引き出す教師



協議におけるオープン＆フラットな環境



# 小学校 国語 第6学年 「構成を考えて、提案する文章を書こう」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝えたい内容を明確にし、説得力を高める構成で提案する文章を書くため。</li> <li>・ 自分の意見や提案などを、相手に納得してもらえるように説得力をもって相手に伝える力を付けるため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案する文章の構成や書き表し方を理解する。</li> <li>・ 提案と体験の関係性を考え、具体例から上位概念を考える。</li> <li>・ 目的や意図に応じて情報を集める。</li> <li>・ 説得力という観点で文章全体の構成を考える。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説得力のある文章の構成を考えるため、様々な文章を参考にしながら学ぶ。</li> <li>・ 他者の学習状況等を共有し、他者の作品を読み、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること通して、説得力のある文章の構成や表し方、内容について考えを深めながら学ぶ。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何かを提案するときに、提案内容とその根拠を結び付けて、説得力のある構成を考えて文章を書くことに生かす。</li> </ul>

探 究

習 得

時間	最終時（第9時）	第8時	第7時～第4時	第3時・第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 説得力の観点で感想を伝え合うことができる。 ● 他者の提案する文章を読み、説得力があると感じた部分について伝え合う。 ● 提案する文章を書くときに大切なことをまとめ、今後に生かせそうなことを探す。	◎ 既習事項を踏まえて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 ● 既習事項を確認し、互いの文章を見直す。	◎ 提案する文章の構成を考えることができる。 ◎ 説得力のある構成を考え、提案する文章を書くことができる。 ● テーマに関する情報を集める。 ● 集めた情報を整理し、書く相手と提案内容を明確にする。 ● 文章の構成を考える。	◎ 筋道のとった文章の構成について考え、提案する文章の特徴を理解することができる。 ● モデルとなる文章を見て、提案する文章の特徴を調べる。 ● 説得力のある構成についてまとめる。	◎ 原因と結果など情報と情報との関係について、理解することができる。 ● 素材文を読み、デジタル機器の使い方を振り返り、提案したい内容を考える。 ● 各自の課題を考え、自身の学習計画を立てる。
学習を自己調整する子供の姿	自分のペースや読みたいテーマに合わせて、他者の提案する文章を読む。単元前と単元後の自身の考えを比較し、学習したことを振り返る。	他者からのコメントを見て、自身の提案する文章を修正する。	資料や他者の途中経過を参照しながら、自分のペースで学習を進める。文章の構成を考える中で、情報の不足に気付き、情報収集に戻るなど、児童が自分で状況を確認しながら、文章の構成を考える。	モデル文の読み取りを行ったり、他者と相談したりしながら、説得力のある構成について考える。	他者の考えを参照したり、話し合ったりしながら考えを広げる。
デジタルの活用	共有機能（他者の作品を読む。）	コメント機能（他者と意見交流をする。）	アンケート機能（児童間でアンケートを実施し、提案する文章に生かす。）／付箋機能（構成を考える。）	デジタルノート／共有機能（説得力のある構成や他者の気付きを随時共有する。） ※ デジタルノートは全時間で活用した。	

## ◆本時：第5時／全9時間◆

### 本時の目標

構成を考えながら、提案する文章を書こうとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の進捗を確認し、本時の学習内容を確認する。</li> <li>・ 黒板に進捗状況が分かるように名札を貼り、本時のめあてを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ デジタルノートで共有している既習事項で、随時学習を振り返る。</li> <li>★ 毎時間の振り返りシートを共有し、誰が何をしてきたのかを把握しながら、学習を進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題を追究する。</li> <li>・ 構成を考え、提案する文章を書く。</li> </ul> <p>※ 子供は、以下の①から⑥の手順に沿い、個に応じた進捗で取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① テーマを決める。</li> <li>② 情報を集めて整理する。</li> <li>③ 構成を考える。</li> <li>④ 下書きを書く。</li> <li>⑤ 推敲する。</li> <li>⑥ 清書する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 共有機能を使用し、既習事項を一覧で見られるようにする。</li> <li>★ 付箋機能を使用し、情報の入れ替えや整理をしながら、提案する文章を考える。</li> <li>★ 付箋機能を使用し、情報の整理や構成を視覚化し、記録に残す。</li> <li>★ 下書きは文章作成ソフトを活用し、試行錯誤や修正を行う。</li> <li>★ 文章作成ソフトのコメント機能を使用し、話し合いを可視化し、考えを深める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> <li>・ 黒板に貼った進捗状況を更新し、学習を振り返り、次時に取り組む内容を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ デジタルノートで共有している学習計画や既習事項で、学習に見通しをもつ。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

学習計画と評価規準を児童と共有することにより、単元のゴールを明確にし、学んだことをどのように生かすかを常に意識しながら学習に取り組めるようにした。また、提案する文章を考える際に、評価規準を確認できるようにし、学習活動が目標に照らしてずれないようにした。共有機能を用いて随時、他者参照ができるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



過去の資料と現在の文章の構成を二画面表示にして照らし合わせて確認し、提案する文章を考えていた。自分のやるべきことを理解し、教師の声掛け後、すぐに活動に取り組んでいた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



他者と協力して情報収集を行い、予想される反論についての視点を広げていた。  
他者の書いていることに問い返し、説得力のある文章についての理解を深めていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

以前までの「教師が引っ張る」から、児童同士を「つなぐ」、児童同士で「気付かせる」という意識で授業を行った。そのためには教材研究を的確に行い、評価規準を明確に示すこと、深い児童理解が欠かせないことが分かった。

# 小学校 社会 第5学年 「米作りのさかんな地域」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲作に関わる社会的事象を学習することで、我が国の米づくりが自然条件を生かし、食料生産は、人々の工夫や努力、生産技術で支えられていることを理解するため。</li> <li>・ 課題を把握し、それにどのように対応しているかを取り上げることで、人々の工夫や努力について、より焦点化して考えられるようにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米の生産地の自然条件や、生産性を高める工夫、品種改良などの技術の向上、流通の仕組みなど、食料生産を支える人々の取組について理解する。</li> <li>・ 地図や統計資料から必要な情報を正確に読み取る技能や、生産者の工夫・努力を多角的に考察し、自分の考えを筋道立てて説明する力を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書、資料集、地図帳、自作プリント、学習動画等の活用や、農家の方とのオンラインインタビューの設定により、これらを適切に活用しながら、互いの考えを伝え合い、議論する。</li> <li>・ 毎時間、意見交流をする「シェアタイム」を設ける。その中で、表計算ソフトにまとめた「なぜそのようになっているのか」「学習問題と関連付けて考えたこと」を中心に交流させ、考えを深められるようにする。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産者や消費者など多様な立場から農業の課題を深く考え、これからの食料生産の発展について自分の考えをもち、現在の農業が抱える課題を見いだすことに生かす。</li> <li>・ 食料生産に携わる人々の努力を通じて働くことの大切さを知り、日本の農業がよりよく発展するために大切なことは何かを話し合うとともにこれからの農業の発展について自分の考えをまとめる活動を通して、持続可能な取組について考えることに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時(第10時)・第9時	第8時・第7時	第6時～第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 米づくりに関わる現状や新たな取組を調べ、日本の農業の発展について考え、表現できる。 ● 農業の現状や新たな取組について調べる。 ● 日本の農業のよりよい発展に大切なことは何かを考える。	◎ 調べたことを関連図にまとめ、学習問題について話し合うことを通して、食料生産に関わる人々の関係性を理解できる。 ● 関連図にまとめ、学習問題について話し合い、考えをまとめる。	◎ 食料生産に関わる人々の工夫や努力を理解できる。 ● 食料生産に関わる人々の工夫や努力について、地図帳や各種資料で調べ、まとめる。	◎ 学習問題を見だし、本単元の学習計画を作る。 ● 自分の家で食べている米の産地調べから、疑問を出し合う。 ● 出し合った疑問を整理して学習問題をつくり、計画を立てる。
学習を自己調整する子供の姿	日本の農業がよりよく発展するために何ができるか考える。その後、他者との意見交流を通して、改めて自分の考えをまとめる。	個人で調べたことを基に、他者と意見交流をしながら、関連図にまとめる。	学習の進め方を自分で選択し、分かったことや次に調べたいことをまとめる。	消費者が年間を通して安定的に米を購入できることについて話し合い、そこで生まれた疑問から学習問題を見だし、学習方法、取り組む時間等の計画を立てる。
デジタルの活用	ウェブ通話機能(オンラインインタビュー)／表計算ソフト(学習内容のまとめ・振り返り)	表計算ソフト(学習内容のまとめ【関連図】)	学習動画／表計算ソフト(学習内容のまとめ・振り返り)	表計算ソフト(学習計画の作成)

## ◆本時：第9時／全10時間◆

### 本時の目標

米づくりに関わる新たな取組や日本の農業の現状について、各種資料やオンラインインタビューで調べ、それらに関連付けて課題を見いだすとともに、現状を改善するために大切なことについて考えることを通して、日本の農業の発展を考えることができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習計画を確認する。</li> <li>・ 米の生産に関わる人々の関係性に関連図にまとめたことを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 個人でまとめた関連図を基に、米の生産に関わる人々の取組について振り返る。</li> </ul>
<p>米づくりに関わる新たな取組や現状について調べ、日本の農業のよりよい発展のために大切なことは何かを考える。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の農業の新しい取組や現状について調べ、まとめる。</li> <li>・ 教科書や教師の作成資料、学習動画、ビデオ通話等の中から、何を使って学ぶかを自分で選択する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 各種資料の一つとして、学習動画を活用する。</li> <li>★ 米農家の方2名に、オンラインインタビューで質問する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取組と現状を関連付けて、日本の農業がよくなるために大切なことについて考えをまとめる。</li> <li>・ 米づくりのよりよい発展のために必要なことを考え、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 調べて分かったことや考えたことを、学習者用端末にまとめる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調べて分かったことや自分の考えを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末にまとめたことを基に、意見交換する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習を振り返る。</li> <li>・ 学んだことや疑問に思ったことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 表計算ソフトのワークシートに記入する。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

米農家の方と元米農家の方の2名とオンラインインタビューを実施し、各種資料を使っても解決できなかったことや、新たにできた疑問などを個々に質問できる場を設けることで、主体的に問いを解決できるようにした。また、学習者用端末にまとめた「分かったこと」や「学習問題と関連付けて考えたこと」について意見交流したり、「次に調べたいこと」を書かせたりしたことで、次時への意欲を高められるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



前時までの振り返りを基に、疑問に思ったことやさらに知りたいことを踏まえて学び方を選択して、個人で調べたり、考えをまとめたりしていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



他者と一緒に調べたり、「分かったこと」や「学習問題と関連付けて考えたこと」について考えを共有したりすることで、様々な立場の視点から多角的に考えていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

学級全体で作成した学習計画から、児童一人一人が調べる計画をたて、それを基に、児童が教科書や資料集、プリント、学習動画等の教材を選択し主体的に学習できる環境を整えた。学習者用端末にまとめ用シートを作成し、児童の学習の進捗状況を常に把握しながら、個に応じた適切な声掛け等の指導・助言・支援を行った。

# 小学校 算数 第4学年 「がい数」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数の構造や位の仕組みに着目し、目的に合った数の処理の仕方を理解することで、日常の事象を数量的に捉えられるようにするため。</li> <li>数量に関する基礎的・基本的な知識を活用し、生活の中で見通しをもって考えることができるようにするため。</li> <li>「数学的な見方・考え方」を働かせ、必要な程度の正確さで数を扱えるようにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概数の意味や四捨五入の仕方を理解し、目的に応じて数を概数で表すことができるようになる。</li> <li>数の構造に着目して、どの位までの概数にするかを判断する力を身に付ける。</li> <li>数量の関係に着目し、筋道を立てて考え、表現する力を身に付ける。</li> <li>数学的活動の楽しさや処理のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする態度を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活場面（買い物、人数の見積もり、距離や時間の把握など）を題材に、児童が自分の生活と結び付けて学習できるようにする。</li> <li>数直線や図を用いて、数の構造を理解する。</li> <li>数直線や位の変化を視覚的に示すデジタル教材で、四捨五入の処理の仕方を理解する。</li> <li>学習者用端末等から、自分の考えを記録し、振り返り、他者の考えと比較することで、よりよい方法を見付ける。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>買い物の合計金額の見積り、移動距離や所要時間の把握など、生活の中で生かす。</li> <li>他教科（理科の観察記録、社会の統計資料など）や日常生活において、数の簡略化や見積りの力が求められる場面で生かす。</li> <li>第5学年以降の「データの活用」など、統計的な処理や情報の整理の仕方につなげる。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第10時）・第9時	第8時	第7時・第6時	第5時～第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 概数を使うことよさを実感し、生活に生かすことができる。 ● 概数の意味や四捨五入、切り捨て、切り上げについて振り返り、生活に生かす場面を考える。	◎ 自分の考えを振り返り、よりよい方法について話し合うことを通して、加減乗除の概算の仕方を考えることができる。 ● 目的に応じて四捨五入、切り捨て、切り上げを使い分け、適切な概算や見積りの方法を理解し、活用する。	◎ 概数の意味や用語を理解することができる。 ◎ 概数のよさに気づき、日常生活の中で概数を探することができる。 ● 目的に合わせた切り捨て、切り上げの判断と適用、そして四捨五入の方法と概数の範囲を学ぶ。概数が代表する数の範囲を数直線で表し、「以上」「未満」などの用語や「上から○けた」の表し方を習得する。	◎ 概数の意味や用語を理解することができる。 ◎ 概数のよさに気づき、日常生活の中で概数を探することができる。 ● 目的に合わせた切り捨て、切り上げの判断と適用、そして四捨五入の方法と概数の範囲を学ぶ。概数が代表する数の範囲を数直線で表し、「以上」「未満」などの用語や「上から○けた」の表し方を習得する。
学習を自己調整する子供の姿	自分の学びを整理し、どのように考えたかを再確認し、再構築する。 目的に応じて、どの程度の概数が適切かを判断する。	四捨五入、切り捨て、切り上げの中から、自分で最適な方法を選択する。	正確な計算と概算を比較して効率的な方法を選び、見積りの妥当性を検証し、修正しようとする。	目的に合わせて、四捨五入、切り捨て、切り上げを選ぶ。 数直線を用いて、四捨五入、切り捨て、切り上げを確認し、自分の学習の定着度を把握する。 概数の位を判断し、視覚的に考えを整理し試行錯誤する。 生活経験と結び付けて学習の意義に気付く。
デジタルの活用	共有機能（毎時間の板書や学習の振り返りを蓄積し、児童が学習の途中で必要に応じて確認する。）			

## ◆本時：第8時／全10時間◆

### 本時の目標

自分の考えを振り返り、よりよい方法について話し合うことを通して、目的に応じた概算や見積りの仕方を考えることができ、生活の中で使ってみようとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時までの学習を振り返る。</li> <li>●共通の問題を把握する。</li> </ul> <p>ICカードにいくらチャージしておけば足りるかな？</p> <p>こま線 394円 第五バス 235円 こまモノレール 380円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャージしておくべき金額を出し合う。</li> <li>・四捨五入、切り上げ、切り捨てのうち、どの方法で考えるとよいか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ デジタルで共有された、これまでの板書や学習内容を振り返る。</li> </ul>
<p>どんながい数で表すとよいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自力解決をする。</li> <li>・①～③までの問題場面を選ぶ。</li> <li>・問題解決の場面で、どの方法（四捨五入、切り捨て、切り上げ）が適切かを考える。</li> <li>●共有する。</li> <li>・それぞれのグループでどのように問題解決をしたかを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 自力解決や他者との交流を通して気付いたことを共有機能に書き込む。</li> <li>★ デジタルでこれまで着目してきたポイントを見返し、問題解決に生かす。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体で学習を振り返る。</li> <li>・どんな概数で表すとよいか考える時にどんなところに着目したかを共有する。</li> <li>● 学習のまとめをする。</li> </ul> <p>がい数に表して考えるときはどんな場面に着目する。目的をはっきりさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 自力解決、共有を通して気付いたこと（着目ポイント）を全体で共有する。</li> <li>★ 他者の振り返りも見ることができる共有機能を用いて振り返りを行う。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

児童が共有ノートに毎時間の学習を記録し、振り返り、友達の考えと比較しながら数の構造への理解を深められるようにした。本時では、自分に合った問題を選び、協働的に解決を図る中で、概数での適切な表現を判断し、学習を調整する姿勢を育めるよう工夫した。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



共有機能を用いて、学習履歴を参照しながら板書や他の児童の発言から数学的な見方・考え方を振り返った。その中で、自分の考えを深めていき、問題解決に取り組んだ。

### 他者と協働し、考えを深める姿



選んだ問題に対して、複数の方法で答えを求め、適切な方法を話し合った。話し合いの過程では「その方法だと結果が不十分になる」といった気付きを得る様子が見られた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

単元を通して、児童が数学的な見方・考え方を働かせることができるよう、毎時間学習履歴を共有した。本時では、児童が選択した問題場面ごとにグループを分けているため、教師は各グループの進捗を常に確認して問い返しや助言を行い、思考を深める支援を行った。

◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ てこの規則性が使われた道具の工夫や便利さを考察し、学習内容と日常生活とのつながりに気付けるようにするため。</li> <li>・ 身の回りの道具に利用されるてこの規則性を追究することで、自然の事物・現象に対する理科の見方や考え方を豊かで確かなものにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ てこの規則性を理解する。</li> <li>・ 観察や実験における器具の正しい操作、結果を適切に記録する基本的な技能を身に付ける。</li> <li>・ 実験結果を分析・整理する活動を通して、てこの規則性について、より妥当な考えをつくりだし、言葉や図を用いて表現することができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自で実際に物を持ち上げる体験的な学習活動を通して、小さな力で重いものを持ち上げて感じたことを学級全体で共有し、自分なりの問いをもつ。</li> <li>・ 学習者用端末のスライド機能を活用し、実験の計画や方法、必要な道具や器具などを話し合い、実験後は共同編集機能で互いの結果を共有し、多面的に考察する。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の興味・関心に応じて、てこの規則性が身の回りの道具にどのように生かされているかを考察し、日常生活との関連を踏まえて、道具の効果としてこの規則性とを関係付けて考えられるようにする。</li> </ul>

探 究

習 得

時間	最終時(第10時)～第8時	第7時・第6時	第5時	第4時～第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ てこの規則性を利用した道具について、どのような規則性を利用しているか説明しようとしている。 ● 自分の興味・関心に応じて、身の回りのてこの規則性を利用している道具を見付け、その規則性について説明する。	◎ てこが水平になるときには、左右で支点からの距離×おもりの重さが等しいことを理解する。 ● てこが水平になるときの規則性を見いだし、規則性を利用したさおばかりを製作する。	◎ 実験用てこの使い方を知り、実験結果を数値化して考え、てこの規則性を理解する。 ● 実験用てこを用いて、小さな力で持ち上げる際の支点、力点、作用点の位置関係についてまとめる。	◎ 問題に対し、実験計画を立て、計画に沿って実験を行うことができる。 ● 計画に沿って実験を行い、実験結果を共有し、問題に対するより妥当な考えを作り出す。	◎ てこを使って重いものを持ち上げる体験を通して、問題を見いだす。 ● 各自で気付いたことを全体で共有し、学級全体で問題を考える。
学習を自己調整する子供の姿	これまでに学んだことを、日常生活との関わりの中で捉え直している。	てこがつり合うための条件について、条件を制御しながら実験を行い、結果を考察している。	作用点や力点の位置を決め、力点と支点との関係や支点と作用点の関係について調べている。	見通しをもって観察、実験を行い、観察や実験の結果から、より妥当な考えを作り出している。	てこの手応えの違いを感じ、問題の設定へとつなげる。
デジタルの活用	共有機能(共同編集機能を活用し、スライドの道具の画像に、支点、力点、作用点を書き込む。)	共有機能(実験結果を共同編集機能で共有し、他の班の実験結果をいつでも参照できるようにする。)		共有機能(共同編集機能を活用し、実験計画を考える。実験結果を撮影機能で記録する。)	

## ◆本時：第9時／全10時間◆

### 本時の目標

てこの規則性が利用されている身の回りの道具について、その道具の支点、力点、作用点の位置を明確にしながら、どのようなてこの規則性が使われているかを説明しようとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<p>● 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>★ 前時で見付けたてこの規則性を利用した道具を共同編集機能で共有する。</p>
<p>てこの規則性を利用している道具の、支点、力点、作用点を見付け、どのような規則性を利用しているのかを説明しよう。</p>	
<p>● てこの規則性が使われている身の回りの道具について、支点、力点、作用点を示し、どんな規則性を利用しているかを考える。</p> <p>・ 複数ある道具から、自分の興味・関心に応じて選択する。</p>	<p>★ 実物を用意することが難しいものは、画像等に、支点、力点、作用点を書き込む。</p>
<p>● てこの規則性を使った道具について、支点、力点、作用点を示し、どんな規則性を利用しているかを説明する。</p> <p>・ 説明する側は、てこの規則性を使った道具がどのような規則性を利用した道具かを実験用てこや具体物を使いながら、説明する。</p> <p>・ 聞く側は、自分の興味・関心に応じて、道具の説明を聞きに行く。</p>	<p>★ 共同編集機能で、他者が選んだ道具の説明を参照することで、児童一人一人の興味・関心に応じた交流を行う。</p>
<p>● 本時の活動について振り返る。</p> <p>・ 学んだこと、できるようになったことを学習者用端末に入力する。</p>	<p>★ アンケート機能を使い、振り返りを行う。</p> <p>★ 個人の振り返りを一覧で見ることができるようにする。</p>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

単元の始めでは、身の回りにある、てこの規則性を利用した道具を探る活動を行った。それぞれが見付けた道具を学級全体で共有し、これらの道具に関して、てこの規則性を用いて説明することを課題とした。一人一人が興味・関心に応じて道具を選択し、実際に操作したり、他者の考えを参照したりすることができるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



複数の道具から自分が説明できそうなものを選択していた。また、具体物を操作しながら、どのようなてこの規則性が利用されているのかを考えていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



学習者用端末を活用し、他者の考え方を一覧にして見て、学びを広げていた。自分が説明できない道具について、他者との交流を通して理解を深めていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

てこの規則性を利用した道具を学習者用端末に配信した。また、児童が見付けた具体物を用意し、児童が操作しながらてこの規則性について考えることができるようにした。毎時間、学んだことを振り返る時間を設定し、児童が目的意識をもって、学習に臨むことができるようにした。

# 小学校 音楽 第4学年 「いろいろな音のひびきを楽しもう」

## ◆題材の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す題材デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら音楽と関わり、他者と協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら音楽に親しみ、生活を明るく潤いのあるものにするため。</li> <li>演奏活動に重点を置き、児童にとって身近な音楽や音の響きを取り上げることで、学ぶ意義を実感できるようにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和音や旋律の響きのよさや面白さを感じ取りながら、和音に含まれる音を中心に旋律が表現されていることを学ぶ。その仕組みを生かし、その場で音を選んだり、組み合わせたりして表現する活動を通し、旋律づくりのアイデアを広げることができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者と協働して音楽活動をする楽しさを味わうために、振り返りから新たな課題や問いを見だし、協働的に課題解決を図る。</li> <li>児童の課題解決力を高めるため、学習者用端末に配布したデジタルワークシートを用いて、児童が互いの考えを即時共有しながら学ぶ。</li> <li>自身の状況をメタ認知し、自己調整する力を高めるために、他者からアドバイスをもらう機会を意図的に設定し、演奏動画の記録を活用しながら学ぶ。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これからの音楽活動や生活の中の音楽で楽曲に出会った際に、音の響きや、組み合わせに着目する新たな視点をもって楽曲を聴いたり、演奏したりできるように生かす。</li> <li>他者の価値付けをもとに試行錯誤しながら、表現や発想の幅を広げる活動を通して、自分にとって音楽づくりが身近なものとなるように生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第5時）・第4時	第3時	第2時・第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 和音に含まれる音を使って、音を選んだり組み合わせたりして表現することができる。 ● ペア活動において、4小節の演奏を表現する中で様々な発想を得る。 ● 他者のアイデアをより旋律らしくするために共通点を探り、和音に含まれる音をその場で選んで表現する。	◎ 曲の和音に含まれる音と旋律の音の高さとの関わりについて考えることができる。 ● 曲の旋律と楽譜を見て、関係性について考える。	◎ 曲を聴いたり演奏したりして、和音に含まれる音やその移り変わりに気付き、よさを感じ取ることができる。 ● 伴奏を聴いて和音に含まれる音を体の動きで表現し、その特徴(機能)を感じ取る。
学習を自己調整する子供の姿	他者からアドバイスをもらったり、自分の演奏動画を見たりして、和音の響きを生かした表現を自ら高めている。 どのように音を選んだり、リズムを工夫したりすれば、よりよい表現になるか試行錯誤している。	旋律と和音伴奏の楽譜を見る、配布音源を自由に聴く、実際に音を出すなどの活動を自ら選び、和音の響きと旋律の音の高さとの関わりを追究している。	曲の和音に含まれる音の移り変わりやその響きについて、体の動きで表す、楽器で音を鳴らす、伴奏を付けるなどの活動を選び、自分に合った方法で音の響きを感じ取っている。
デジタルの活用	共有機能（旋律を修正、追加する。）／ 撮影機能（演奏を録画する。）	共有機能（旋律を修正、追加する。）	再生機能（必要なタイミングで曲を聴く。）

## ◆本時：第5時／全5時間◆

### 本時の目標

和音に含まれる音を使って、端末を活用した旋律づくりを行い、他者の価値付けをもとに試行錯誤しながら様々な発想を得て、表現の幅を広げようとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 常時活動を行う。</li> <li>● 学習履歴シートから課題意識をもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>和音に含まれる音を生かして、ペアで4小節のメロディーをつくろう。</p> <p><b>問い</b> どうしたら、よりよいメロディーになるだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習履歴シートの紹介を行い、テキストマイニングされたキーワードから課題意識を共有する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 和音に含まれる音を生かして、ペアで4小節の旋律をつくる中で、様々な発想を得る。</li> <li>・ 和音の移り変わりに合わせた4小節の旋律を考える。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>つくる時の約束</p> <p>①和音に含まれる音を生かす。</p> <p>②一人2小節をペアでつなげる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の途中経過を見たり、実際に演奏してもらったりして、様々な発想を共有する。</li> <li>・ もう一度、自分の表現を見直して、よりよい表現を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ デジタルワークシートを配布し、他者とペアで聴き合いながら、考えた旋律を修正、追加できるようにする。</li> <li>★ デジタルワークシートを共有し、他者の途中経過を見ながら、発想を広げる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習を振り返る。</li> <li>・ 演奏して自分の表現を確かめる。</li> <li>・ どうしたら、よりよいメロディーになったか、学習履歴シートに記入する。</li> </ul>	

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

学習履歴シートに自分の学びを蓄積することで、何をどのように学ぶかを明確にして授業を行った。新たな課題や問いを意識し、教師がそれに伴走するように言葉掛けを行い、一人一人の思いや意図が実現できるような音楽づくりの活動を行った。児童が自らの意思で自由に他者参照できるようにし、様々な発想を自分の表現に生かせるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



学習履歴シートから、本時の課題や問いをもち、それに向かって、どのような視点で自分の表現を高めたいか考え、音楽づくりに取り組んだ。

### 他者と協働し、考えを深める姿



意図的に共有する時間を設け、他者の演奏を実際に聞き合い、アイデアを共有した。他者の発想を参照し、それを生かすことで表現の幅が広がった。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

探究の場面では、授業で出てきた疑問等から課題や問いを共有し、それを解決するための方法や視点を、これまでの学習履歴から児童自らが選んで取り組めるようにした。個々の発想に寄り添い、価値付けたり、助言したりして、児童一人一人が自己調整しながら学ぶ授業展開を意識した。

# 小学校 図画工作 第5学年 「コロコロローラードダンス」

## ◆題材の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す題材デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「美しい」「きれいだ」と感じたときの感動や思いを、形や色で表現し、他者に伝えるため。</li> <li>・ 感覚 → 表現 → 理解という学習過程を経験する中で、自己の感じ方を言語化・造形化し、表現力を豊かにするため。</li> <li>・ 自分や他者の作品の造形的なよさや美しさについて感じ取ったり、考えたりして、自分の見方や感じ方を、広げたり、深めたりするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローラーなどで描く際の、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの表現方法や造形的な特徴を学び、それらを生かして自分の表現を進めることができるようになる。</li> <li>・ 形や色などの造形的な特徴を学び、イメージを直感的に捉えたり、自分の表現の効果と関連付けて考えたりすることができるようになる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローラーや絵の具を使った造形活動の過程で、形や色の特徴を具体的に捉えながら学ぶ。</li> <li>・ 「もっと勢いをつけたい」「もっと濃くしたい」「想像したものを形にしたい」などの思いを、表現として積み重ねながら、学習者用端末を活用して、学びの進捗を記録し、自らの学びを振り返りながら表現する。</li> <li>・ 自分の気づきや試したことなどを共有し、共感したり、表現のよさや可能性について語り合ったりしながら、自分の見方や感じ方を広げ深める。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の感覚や行為を通して理解した形や色などの造形的な特徴を、自分らしくつくったり、表したりする技能に生かす。</li> <li>・ 表現や鑑賞の過程で生じる楽しさや美しさ、面白さといった感情や気持ちを、夢や願い、経験や体験したことなど、自分が伝えたいことを作品に表現することに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第5時）	第4時	第3時	第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 形や色を生かして、思い出、感情、季節などを想像し、表したいことを見つけて、自分なりの思いをもって表現する。 ● 絵の仕上げをする。 ● 題名を付ける。 ● 自分や他者の作品を鑑賞する。	◎ 自分で決めた学び方で製作を進める。 ● ローラーの跡を試したり、作品をつくったりする。 【一つの作品を製作するか、複数の作品を制作するかは、児童が決める】 ● 自分や他者の作品を鑑賞する。	◎ 作品製作の方法を考える。 ● 振り返りと題材への向き合い方を決める。 ● 新しいローラーの使い方を発見する。	◎ 題材の目標を理解する。 ● 学習目標を確認する。 ● ローラーの既習事項を確認する。	
学習を自己調整する子供の姿	ローラーの新しい使い方を調べる方法を理解し、調べたことを活用しようとしている。どのように題材の目標を達成するのか、自分なりの方法を考えたり、進め方を選択したりしながら、作品づくりを進めている。			学習者用端末を活用して、自分の学び方を決めたり調整したりする。 作品や感想を伝え合いながら、自分の作品づくりを深めている。	
デジタルの活用	共有機能（自分と同じ発想をしたり、異なる発想をしたりしていることなどから新しい気づきを得て、作品に生かす。作品や感想を送り合いながら、自分の作品づくりを深める。）				

## ◆本時：第3時／全5時間◆

### 本時の目標

ローラーを使う上で気付いた、自分が「美しい」「きれいだ」と感じる表現を形や色で伝えるために、自分で表現方法を探そうとしている。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時までの学習内容を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えた表現方法や造形的な特徴を知ったことを確認する。</li> </ul> </li> <li>● 本時の目標を確認し、本時の学習活動の見通しをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分と似たようなことを試している他者の作品に対し、実際に自分でも試したり、他者の作品をヒントにして製作に向かったりしている学び方を知る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末で自分の製作手順を考え、学び方を決めてから製作を始める。</li> </ul>
<p>ローラーで形や色を工夫して、自分が『きれい』と思う表し方を見付けよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【一つの作品にこだわる】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な方法の試しを行ったことをもとに、組み合わせたり、更に試したりする。</li> </ul> </li> <li>● 【複数の作品をつくる】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品数を増やし、様々な表現の幅を広げる。</li> </ul> </li> <li>● 様々な技法を試したり、作品に生かしたりする。</li> </ul> <p>色の重なり、色の濃さや薄さ 大きさに変化、左右対称、非対称の違い 形と色の配置をいろいろ試し、工夫する 彩度の低さ・・・落ち着いた色 彩度の高さ・・・激しさ・派手</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 様々な表現方法を調べ、学習者用端末に蓄積し、他者と共有する。</li> <li>★ 学習者用端末等で、他者が調べた表現方法を参照し、自分の作品に生かす。</li> <li>★ 共有機能で、作品や感想を送り合いながら、自分の作品づくりを深める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時を振り返り、次時に見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末を活用し、振り返りを行う。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

児童が学習者用端末を活用し、造形的な思いや工夫を写真や文章で記録・共有しながら技法を試すようにした。また、他者と協働的に学び合う中で自己の表現を客観的に捉え、製作の進め方を随時調整できるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



学習者用端末を用いて、自分の学び方を確認したり決定したりしていた。  
製作手順を自分で決めることで、意欲的に製作を進める姿が見られた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



他者や教師と、作品について意見を共有しながら、自分の作品や製作の進め方を考えていた。意見交流は、児童が自分で必要だと思う場面を選択して行っていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

学習内容の自由度と指導のバランスを意識し、放任でも誘導でもなく、児童が学びを「自分事」として捉えられるような授業設計をした。授業中は、児童が決めた製作手順を確認しながら、助言を行った。

# 小学校 体育 第6学年 「ソフトキャッチバレーボール」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにするため。</li> <li>運動の楽しさや喜びを味わい、健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、基本的な技能を身に付け、移動・つなぎ・打ち返しを工夫して簡易化されたゲームをすることができる。</li> <li>運動に積極的に取り組む姿勢や、ルールを守り仲間と協力する態度を学び、勝敗を受け入れ、仲間の考えや取組を認め、安全に配慮しながら運動ができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本動作について、自らの課題を見いだしながら学ぶ。</li> <li>自己の特徴やチームの特徴を見だし、作戦例から特徴にあった作戦を選びながら学ぶ。</li> <li>チームで課題を振り返り、次のゲームに向けて改善点を話し合いながら学ぶ。</li> <li>デジタルの学習カードで学習内容を振り返り、次時のめあてになるものを見いだしながら学ぶ。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己やチームの特徴を踏まえた簡易化されたゲームを行い、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をすることに生かす。</li> <li>自己やチームの課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を日常生活で生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第6時）～第3時	第2時・第1時
<p>◎目標 ●学習内容</p>	<p>◎ ルールや作戦等を選び、自己やチームの課題を改善しながら、ネット型に積極的に取り組む。 ◎ 練習やゲームの中で、仲間の考えや取組を認める。 ● チームの課題を改善するために練習を選択する。 ● チームの特徴を捉えた作戦でゲームをする。</p>	<p>◎ 基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付ける。 ◎ 習得した技能を振り返り、簡易なゲームでどのように課題を解決するのか見通しをもつ。 ● ボールをキャッチするための体の動きを確認する。 ● 攻めと守りの動きについて確認する。</p>
<p>学習を自己調整する子供の姿</p>	<p>ゲームの動きを動画撮影し、作戦タイムや振り返りで視聴することで自己の課題やチームの特徴を捉えている。 チームタイムやゲームの中で見付けた課題や特徴を改善しようとしたり、試したりしている。</p>	<p>動画資料を活用して、ボール操作における動きの目標をもつ。 動画資料や学びのロードマップを活用して、自己の動きについて課題を見付ける。</p>
<p>デジタルの活用</p>	<p>学習動画（動画資料を用いて、動きのゴールイメージを映像から掴む。ボールをはじく動きになっていくことを動画資料から理解する。ゲームの中で分かりづらい動きを動画で細分化し、視覚的に捉える。）／共有機能（前時を振り返る。）／スライド機能（本時の振り返りを書く。）／撮影機能（動画資料と自己の動きを比較することで課題解決を図る。）／デジタルノート（作戦を共有する。）</p>	

## ◆本時：第4時／全6時間◆

### 本時の目標

ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めることができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時のめあてを確認する。</li> <li>● 公正・協力の意義を理解する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">練習やゲームの中で、仲間のよい動きを見付けて、伝えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 前時の課題を想起させるため、動画を活用して本時のめあてを明確にする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● チームの課題を改善するために練習を選択する。</li> <li>● チームの特徴を捉えた作戦でゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームタイム（作戦会議か課題改善）</li> <li>・ 7分間のラリーポイント制ゲーム</li> </ul> </li> <li>● 学びのロードマップで作戦の選択が有効であったかを共有する。</li> <li>● 課題解決を目指したゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームタイム（作戦会議か課題改善）</li> <li>・ 7分間のラリーポイント制ゲーム</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ チームのメンバーの動きを撮影し、自己の課題を客観的に把握する。</li> <li>★ 作戦がまとめられたデジタルノートを確認しながらゲームを行う。</li> <li>★ スライド機能を活用した学びのロードマップを確認しながら、作戦について振り返る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 用具や場の片付けをする。</li> <li>● みんなが安心して活動するために、自己の行動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末を活用し、振り返りを行う。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

学習者用端末に学習の流れを記入した学びのロードマップを配信し、作戦資料とチームの特徴を結び付けて考えられるようにした。

児童が必要なタイミングで動画を撮影し、動きの振り返りができるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



学習者用端末にある学びのロードマップを活用することで、児童が3時間の授業で探究することに見通しをもち、攻めや守りの課題に対して、チームタイムで技能向上に取り組んでいた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



学習者用端末を活用しながら、チームでゲームでの動きの特徴を確認していた。振り返りを行う場面でも、チームのメンバーと動きについて対話をする様子が見られた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

児童が練習やゲームの中で、仲間のよい動きを見付けることができるよう、動画を活用して俯瞰的な視点でよい動きについての助言を行った。学習者用端末に書かれた振り返りを確認しながら、個に応じた言葉掛けをした。

# 小学校 外国語 第6学年 「 Welcome to Japan. 」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の行事や文化のよさを理解し、外国の小学生に日本の魅力を伝えるため。</li> <li>自分と異なる背景や価値観をもつ人と関わり合い理解し合おうとすることで、グローバルな視野を育む第一歩につなげるため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとの行事や日本でできることを伝える関連語句や表現を学び、外国語を聞いて理解したり、学んだことを活用して伝え合ったりすることができる。</li> <li>外国の小学生に興味をもってもらうために、日本の魅力や自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて発表することができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音読練習ソフトやデジタル教科書などを活用しながら、自分の学習状況に応じて、スモールステップで知識・技能が身に付くように学ぶ。</li> <li>過去の学習状況やグループの発表動画等を学習者用端末で参照できる状態にし、自分の学習状況や友達の考えなどを確認しながら学ぶ。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインで外国の小学生とやり取りをすることで、英語によるコミュニケーションの大切さや楽しさを実感し、外国語を学ぶ意義の実感や意欲の向上に生かす。</li> <li>外国の小学生に、日本の行事や文化のよさを伝えることを通して、日本の魅力を再発見するとともに他国の文化を尊重することに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第8時）	第7時～第5時	第4時～第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 日本の魅力を伝えるために、日本の行事や日本でできることなどについて、自分の考えや気持ちを含め発表することができる。 ● オンラインで外国の小学生に日本の魅力や自分の考えや気持ちを発表する。	◎ 相手によりよく分かってもらえるように、日本の行事や日本でできることなどについて、自分の考えや気持ちを話すことができる。 ● 外国の小学生に日本の魅力や自分の考えや気持ちを発表するための、発表内容を考え、発表について改善する。	◎ 最終時の学習活動に向け、学習の見通しをもち、日本の行事や日本でできることなどについて聞き取ったり、伝え合ったりすることができる。 ● 学習に見通しをもち、学習の定着状況を確認しながら、関連語句や表現等を学ぶ。
学習を自己調整する子供の姿	オンラインでの発表を行う際に、これまでの学びを踏まえ、外国の小学生に日本の魅力がより伝わる発表になっているかを確認する。 単元を通してできるようになったことや、今後に生かしたいことを振り返りに表現している。	オンラインでの発表に向けて、相手に日本の魅力が伝わりやすいよう、グループで学習ツールを選びながら発表内容を改善している。	単元のゴールを意識し、何ができるようになったか、ICT学習ツールで自身の変容を把握しながら、粘り強く学習に取り組んでいる。
デジタルの活用	ウェブ通話機能（オンライン交流）／共有機能（過去の学習状況を参照）／アンケート機能（単元全体の振り返り）	デジタル教科書／ピクチャーディクショナリー／スライド機能／撮影機能／トランスクリプト機能（字幕機能）／共有機能（過去の学習状況を参照、他者参照、振り返り）	デジタル教科書／共有機能（見本動画、振り返り）／検索機能／AIを搭載した音読練習ソフト／撮影機能／アンケート機能

## ◆本時：第5時／全8時間◆

### 本時の目標

日本の魅力を相手に伝えるために、日本の行事やできることなどについて、自分の考えや気持ちを話そうとする。

### 本時の流れ

●学習内容／・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ウォームアップ・帯活動</li> <li>・ 日付、曜日、天気等を確認する。</li> <li>● 本時のめあてを確認する。</li> <li>・ 児童が考えた発表についてのALTからのアドバイス動画を見る。</li> </ul> <p>日本の魅力がよりよく伝わるように、ALTの質問に答えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ALTからのアドバイス動画や前時に撮影した児童の動画を学習者用端末で共有し、個別に参照できるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループでめあてを決め、学習の見通しをもつ。</li> <li>● グループで発表練習を行い、発表内容を改善する。</li> <li>・ 学習ツールを選び、グループでよりよい発表にするために活動する。</li> </ul> <p>【学習ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル教科書</li> <li>・ ピクチャーディクショナリー</li> <li>・ トランスクリプト機能</li> <li>・ 前時までの動画や他グループの動画</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで発表の様子を撮影し、学習者用端末で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 各グループでめあてを決め、共有機能を使って投稿する。</li> <li>★ デジタル教科書やトランスクリプト機能などを活用しながら発表内容を改善する。</li> <li>★ 撮影した動画を学習者用端末で共有し、他のグループの動画を参照し、アドバイスをし合う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習内容を振り返る。</li> <li>・ グループで本時の学習を振り返る。</li> <li>・ 個人の振り返りを行い、次時に向けてのめあてをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ アンケート機能を活用して振り返り、次時の内容を共有する。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

児童が自分たちの発表の様子を動画で撮影し、発表の様子を振り返ることができるようにするとともに、トランスクリプト機能を活用し、児童自身が発表について自己分析する際の視点を増やした。また、動画等を学級内で共有することで、学習した過程を可視化するだけでなく、児童同士で改善方法を考えられるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



学習者用端末で確認できる自分たちの発表動画について、トランスクリプト機能を活用し、何度も見直ししながら改善点を話し合っていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



ALTからのアドバイス動画で聞き取れない部分があり、グループのメンバーとトランスクリプト機能を活用して共有し、お互いに質問し合いながら改善を図っていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

児童の学びが自律的になるよう意識した。単元のデザイン段階では、ゴールを明確にし、児童が外国語を学ぶ意義を感じられるよう単元を構想した。探究の段階では、児童が学習を調整できる手だてや仕組みを整え、児童が自ら学習状況を確認できるようにした。授業内では、個々の学習状況を見取り、個別の声掛け等に多くの時間を費やせるようにした。

# 小学校 特別活動 第2学年 「 みんなでつくる！ 気持ちのよいじゅぎょう 」

## ◆題材の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す題材デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級や生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるため。</li> <li>学級や生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活における課題に気付き、その改善に向けて目標を立て、主体的に活動することができる。</li> <li>問題の解決方法を考え、自分に合った方法を選択し、目標に向かって継続的に努力することができる。</li> <li>学級の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとする。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果や上級生の授業の様子を動画で視聴するなど、デジタルを活用することで、他者や上級生の考えや経験に触れ、自分の生活を振り返り、課題を自分事として捉えながら学ぶ。</li> <li>「個人の意思決定」の場面では、共有機能に集まった意見の中から自分に合った方法を選び、個人の目標を決めながら学ぶ。</li> <li>学級活動の事後指導の場面では、自分で決めた個人目標を毎日振り返りながら学ぶ。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いを通して、学級や学校での生活上の諸課題を見付け、その解決に向けて自分たちで改善策を考え、実践することに生かす。</li> <li>毎日の振り返りで、基本的な生活習慣や節度ある生活の定着化を図り、よりよい学校生活に生かす。</li> <li>学級、学校生活で身に付けた基本的な生活習慣を日常の行動に生かす。</li> <li>自分たちでアンケートを取り、生活をよりよくする改善策を考え、実践することに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	事後の指導	第1時	事前の指導
◎目標 ●学習内容	◎ 他者の意見を参考にしながら、どのように生活に生かしていきたいかを考えて立てた具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組むことができる。	◎ 他者との関わりの中で自己の課題に合った意思決定をすることができる。 ● 学級の課題を考え、改善策を考える。	◎ アンケートに回答することで自分の日頃の学習の様子について振り返ることができる。
学習を自己調整する子供の姿	計画通りに進んでいるかを確認し、必要に応じて計画を修正する。	アンケートの結果から課題を捉え、全体の課題から自己の課題を見いだそうとする。 他者の意見を参考にしながら、自分の目標を立てている。	アンケートに回答することで学習に対する興味や関心を高めている。
デジタルの活用	アンケート機能（毎日帰りの会の前に意思決定しためあてや取組について振り返り、自己評価を入力する。）	アンケート機能（結果を電子黒板に映し、結果をもとに課題を考える。）／ 共有機能（課題を解決するための方法を考えて入力する。）	アンケート機能（これまでの自分の学習の様子を振り返り、自分の現状を把握する。）

## ◆本時：第1時／全1時間◆

### 本時の目標

日頃の学校生活を振り返り、相手の話を聞こうとする姿勢の大切さに気づき、他者との関わりの中で自己の課題に合った解決方法を考え、主体的に意思決定をすることができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの学習を振り返り、本時の学習課題を把握する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの学習への取り組み方について振り返る。</li> <li>・ アンケートの結果から気付いたことを発表する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 電子黒板で事前にとったアンケートの結果を確認し、目指したい学び方について考える。</li> </ul>
<p>よりよく学ぶために大切にしたいことを考えよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他学年の授業の様子（映像）を見て、学び方について考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よりよい学び方について考えたり、よい学び手になるよさについて話し合ったりする。</li> </ul> </li> <li>● よりよい学び手になるためにはどうすればよいか考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自でよりよい学び手になるための方法について考え、デジタルノートに記入する。</li> <li>・ 各自が記入したデジタルノートを全体で共有し、多様な解決方法があることを知る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 他の学年の授業の様子を動画で確認する。</li> <li>★ デジタルノートを活用し、自分の考えを表現する。また、意見を共有する時には、意見を見合えるようにし、他者の意見を参考にしながら、自分のめあてや実践方法を決める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後のめあてをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合ったことを参考にして、自分のめあてや実践方法を決める。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ アンケート機能を活用し、自己評価する。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

個人の課題を決める場面において、他者が出したアイデアを学習者用端末のデジタルノートで見合えるようにした。

他者の考えを参考にしながら自分のめあてや実践方法を定めることができるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



事前に児童が答えたアンケートの結果を見て、現状や課題を見付けようとしていた。また、他学年の学ぶ様子の動画を視聴する中で、自分たちとの違いを比較していた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



デジタルノートで他者の考えを見たり、自分で考えたことを共有したりしていた。  
児童が自分の課題を見付け、課題を解決するためのめあてや実践方法を決めていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

教師から一方的に課題を示すのではなく、児童が回答したアンケートの結果や他学年が学ぶ様子を撮影した動画から課題に気付かせ、一人一人がよりよい学び手となるための方法を自己決定できるようにした。

# 中学校 国語 第3学年 「自分ごととして捉える『それでも、言葉を』」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章に書かれた「言葉」に対する現代社会の課題及び筆者の主張を自分事として捉え、主体的かつ批判的に向き合う力を養うため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書かれた内容をそのまま受け取るのではなく、筆者の見方や考え方を自分の考察を交えて解釈し、自分の知識や経験と結び付けて考えながら、文章を批判的に読むことを学ぶ。</li> <li>賛否や共感の有無など自分の立場を明確にして意見をもつことを学ぶ。</li> <li>文章の理解を深め、そこから現代社会の課題などに対して自分の考えをより明確にすることができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や概要を捉え、筆者の考えへの解釈・体験・意見を書き出し、自分の考えをまとめる。</li> <li>既習の論理の展開や具体化・抽象化の力を活用しながら学ぶ。</li> <li>子供が自律的に学ぶためのルーブリックや振り返りを活用しながら、学習に見通しをもちながら学ぶ。</li> <li>デジタルと紙を選択できる学習環境の中で、他者との意見交流や他者に対しアドバイスをすることを通して、自分の学習状況を確認する。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な概念をテーマとした新たな文章を読む際にも、内容を自分事として捉え、身近な生活と結び付ける。</li> <li>社会生活のさまざまな事象について、より広い視野をもって自分の意見を形成することに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第4時）	第3時・第2時	第1時
<p>◎目標 ●学習内容</p>	<p>◎ 批判的に読む力を今後どのように生かすかについて、具体的なイメージをもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「『言葉』についての自分の考え」を共有し、考えを広げたり深めたりする。</li> <li>批判的に読む力が生かされそうな場面について考える。</li> <li>単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<p>◎ 批判的に読むことで、文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 解釈・B 体験・C 意見カードを用いながら、文章を批判的に読む。A～Cにとどまらず、自分で考えて取り組む時間があってもよい。</li> <li>「『言葉』についての自分の考え」を150字以上で書く。</li> </ul>	<p>◎ 本文の概要を把握し、読み深めたい部分を選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元目標と「批判的に読むこと」の定義を理解する。</li> <li>教材の概要を把握する。</li> <li>本単元で読み深めたい部分を選択する。</li> </ul>
<p>学習を自己調整する子供の姿</p>	<p>これまでの学びを踏まえ、「どのように生かすか」を振り返り、表現している。</p>	<p>文章に表れたものの見方・考え方について、「どのように学ぶか」を適宜選択しながら考えを広げたり深めたりする。複数のワークシートから自分に必要なワークシートを選択し、学ぶ。</p>	<p>「なぜ学ぶか」を認識する。「何を学ぶか」を決める。</p>
<p>デジタルの活用</p>	<p>共有機能（相互コメント・評価）</p>	<p>共有機能（他者参照・教材の選択）</p>	<p>共有機能（学習履歴の蓄積）</p>

## ◆本時：第4時／全4時間◆

### 本時の目標

批判的に読む力を今後どのように生かすかについて、具体的なイメージをもつことができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時の振り返りを行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りから、前時を想起する。</li> </ul> </li> <li>● 本時の学習活動を確認する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアの生徒の作品を読みながら、相互にコメントやフィードバックをする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ デジタルで前時の振り返りを確認する。</li> <li>★ コメント機能、リアクション機能を活用して、考えを広げる。</li> <li>★ フィードバックのよい事例を示し、参考にする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークシートに書いた『言葉』についての自分の考えを共有し、考えを広げたり深めたりする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者のワークシートやこれまでのワークシートを読み返す。</li> <li>・ フィードバックを相互に送る。フィードバックについて、「誰に書くか」「何人に書くか」は個人で選択する。</li> </ul> </li> <li>● 批判的に読む力が生かされそうな場面について考える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙の付箋に書き出す。</li> <li>・ 黒板上で分類する。その後の振り返りでデジタルを活用させることを考慮し、付箋・板書を活用する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ オンラインホワイトボード上で他者のワークシート等を確認する。</li> <li>★ 他者の取組を自由に参照したり、自己の取組を調整、修正したりする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単元の振り返りをする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本単元でできるようになったこと」、「どのように生かすか」などについて単元の取組を振り返りながら書く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 他者参照ができるデジタルワークシートを活用して、振り返りを書く。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

毎時間の振り返りについて、生徒自身が自分の学習の状況を把握できるようにするとともに、学習者用端末で他者の振り返りを参照できるようにし、考えを深められるようにした。教師は、生徒の振り返りにコメントし、形成的評価を行うとともに、次時に生かした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



学習者用端末を学びの蓄積及び共有ツールとして活用し、前時までの取組や他者の取組を参照し、自分と他者の取組を比較していた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



ペアで1枚の付箋を書いて提案するという活動を行った。付箋を黒板に貼ることで、活動の内容を確認しながら、デジタルワークシートの振り返りに生かして考えていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

生徒同士の思考をつなぐファシリテーターとしての役割を意識した。そのため信じて委ねるという言葉のとおり、生徒自身の気づきや学習調整、生徒同士の学び合いが起こることを「待つこと」を心がけた。その結果、生徒自身に「学び方」そのものを育む契機とすることができた。

# 中学校 社会 第2学年 「 関東地方 」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特色を、他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付けるため。</li> <li>持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養や、よりよい社会の実現のために課題を主体的に解決しようとする態度を養うため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関東地方について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた「人口集中」という地理的特色と、それに関連する産業・交通の発展や、そこで生じている地域の課題を理解する。</li> <li>関東地方（特に東京都）の地理的特色を踏まえて、東京都をより発展させるプランを多面的・多角的に考えることができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を分担して東京都の地理的特色をまとめる中で、他者と協働的に追究し、結果を共有スライドにまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする。</li> <li>東京都をより発展させるプランをグループで話し合い、最終案を共有ドキュメントのワークシートにまとめる。共有ドキュメントのワークシートにまとめた単元初めの予想と最終案の自分の考えの変化や深まりを比較することで、自分の学びを自覚する。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題を地理的な視点から考察し、その解決を考える際に、政策案を提案するなど、よりよい社会の構築に向けて、その課題を解決しようとする力を養うことに生かす。</li> </ul>

探 究

習 得

時間	最終時（第7時）・第6時後半	第6時前半～第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 東京都やその周辺の人口集中の理由や影響、東京都をより発展させるプランについて考え、自分の意見をまとめ、それらを記述することができる。 ● 東京都やその周辺の人口集中の理由や影響、東京都をより発展させるプランを考え、よりよい社会の構築について考える。	◎ 4つの視点（「首都」「第三次産業」「農業・工業」「課題と対策」）を分担して調べ、それぞれの視点から分かる東京都の地域的特色を理解し、説明することができる。 ● 4つの視点から分かる東京都の地域的特色を理解する。	◎ 自然環境の視点から、東京都とその周辺に人口が集中する理由を説明することができる。 ● 関東地方の地形と気候について、地形の特色と関連付けて自然環境の特色を理解する。
学習を自己調整する子供の姿	東京都をより発展させるプランをグループで話し合い、その結論を根拠とともに発表している。単元での学びを振り返り、最終的な自分の考えをワークシートにまとめている。	個人でスライドにまとめる際に、前時の振り返り等を生かしてまとめる学習サイクルを繰り返している。他者の発表を聞くことで、多様な新しい知識を獲得し、東京都の地域的特色の理解を深めている。	単元のねらいや流れを理解して学習の見通しをもったり、追究したいことをワークシートにまとめている。
デジタルの活用	共有機能（共同編集機能を用いて、単元のまとめ（最終案）を記述する。予想と最終案を比較して変化したことや深まったことを記述する。）	共有機能（スライドを作成する。）	共有機能（共同編集機能を用いて、学習前の予想を記述する。）

## ◆本時：第6時／全7時間◆

### 本時の目標

東京都の地理的特色について、多面的・多角的に考察し表現し、東京都をより発展させるプランについて主体的に追究しようとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時のねらいと学習の見通しを確認する。</li> <li>・ 本時のねらいを理解し、本時の学習の見通しをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人口が増加する東京都の地理的特色を生かして、東京都をより発展させるプランを考えよう。</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれの視点から調べた東京都の地理的特色を発表する。</li> <li>・ 各グループで、それぞれの視点から調べた東京都の地理的特色を発表する。</li> <li>・ 他者の発表から、東京都をより発展させるプランを考える際に、必要だと思う地域的特色をメモする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 個人でまとめたスライドを共同編集機能を使って発表する。</li> <li>★ スライドを見ながら、必要な情報はワークシートに記録する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都をより発展させるプランを考える。</li> <li>・ グループで発表した東京都の地理的特色を踏まえて、各自で東京都をより発展させるプランを考え、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 優先順位1～3位とその理由を、学習者用端末の共有ドキュメントのワークシートに記入する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習内容を振り返る。</li> <li>・ 本時の学習を振り返って、「学んだこと」、「もっと知りたいこと（調べたいこと）」をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 共有ドキュメントのワークシートに記入し、自分の学びを振り返る。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

授業前半では、学習者用端末を使って他者の考えを共有できるようにし、多面的・多角的に東京都の地理的特色を理解できるようにした。授業後半では、前半で獲得した知識や考え方を踏まえて、東京都をより発展させるプランの優先順位を考え、まとめることで、各自の課題の設定につながるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



東京都をより発展させるプランについて、これまでの学習内容を振り返りながら考えていた。グループ内の他者の発表内容等を踏まえて考察し、プランの優先順位を決めていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



グループ内で、自分が担当した視点から分かった東京都の地理的特色を、スライドを用いて発表していた。発表を聞き大切だと思ったことや、疑問に思ったことを記録していた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

生徒が自ら学習を調整しながら主体的に学習できるようにするために、単元を通して自分の考えの変容を自覚できるよう、毎時間、振り返りシートに自分の考えを記入させた。また、振り返りシートの記載内容から、課題解決が思うように進んでいない生徒に対して重点的に支援を行った。

# 中学校 数学 第1学年 「文字と式」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量の関係や法則などを簡潔、明瞭、一般的に表現するため。</li> <li>・ 数量の関係を具体的なものの意味によらず、抽象的な数の関係として考察するため。</li> <li>・ 自分の思考の過程を表現し、他者に的確に伝達するため。</li> <li>・ 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力を養うため。</li> <li>・ 文字を用いた式を、問題解決の場面で活用できるようにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字を用いることの必要性と意味を理解する。</li> <li>・ 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を学ぶ。</li> <li>・ 簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。</li> <li>・ 文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったりすることができる。</li> <li>・ 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算を考察し、表現することができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既に学習した計算の方法と関連付けて、文字を用いた式の計算の方法を考察する。</li> <li>・ 文字が表す数量とその関係を理解するために、具体的な数に置き換えて考える。文字がいろいろな値をとることができることの理解を深めるため、文字を用いた式の文字に数を代入して式の値を求める。</li> <li>・ ICT機器を用いた他者との意見共有によって、自身の考えを深めたり、多様な意見に触れたりするなど、よりよい方法を選択する。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未知の問題に対して、自分なりの考えをもつことにつなげる。</li> <li>・ 文字を用いることよきに触れることで、積極的に文字を使って問題を解決していこうとする姿勢を養う。</li> <li>・ 学習者用端末を活用した振り返りを通して、生徒自身が理解している状況を把握しながら、学習を調整することができるようにする。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時(第16時)～第13時	第12時～第9時	第8時～第3時	第2時・第1時
◎目標 ●学習内容	◎ いろいろな数量を、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりできる。 ● 文字を用いた式や等式・不等式を理解し、それらの式が示す意味の説明や、複雑な数量の関係を表現し、読み取る。	◎ 項と係数の意味を理解し、1次式の加法と減法、1次式と数の乗法と除法の計算できる。 ● 同類項をまとめて整理したり、分配法則を活用したりするなど、一次式の四則計算を行う。	◎文字を用いた式について、積や商、累乗の表し方を理解している。 ● 様々な数量関係を文字式で表わす。さらに代入による式の値の算出や、具体的な図から式の意味について説明する。	◎ 文字を用いることの必要性と意味を理解し、具体的な数量を、文字を用いた式で表すことができる。 ● 正方形の棒の数といった具体的な問題について、式と図を活用しながら、説明する。
学習を自己調整する子供の姿	既習事項を振り返りながら、どのようにすれば問題解決できるのかを主体的に推論している。 誰と学ぶ、何を使って学ぶのかを適切に判断している。	既習事項を振り返りながら、どのようにすれば計算できるのかを主体的に推論している。	振り返りシートを用いて、自身の学びを振り返る。 既習事項と関連付けて、文字を用いた式を適切に表現している。	
デジタルの活用	共有機能(振り返り・ホワイトボード)	共有機能(振り返り) / 検索機能		

## ◆本時：第13時／全16時間◆

### 本時の目標

文字を用いた式を活用して、立方体をつなげた棒の本数を求める式について、それが何を表しているのかを説明することができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正方形をつなげた図形で棒の本数を数えた学習の復習をする。</li> <li>● 本時の問題を確認する。</li> </ul> <p><b>問題</b> 下の図のように立方体を横に並べてつくるときに、必要な棒の本数を求めなさい。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末に配信されている授業の記録を確認する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2つの方法から選択し、自力解決をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人に配布されたプリントに書き込む。</li> <li>・ 学習者用端末に配信された操作できる図形を用いて考える。</li> <li>・ 考えを共有する。</li> </ul> </li> <li>● 提示された4つの式から1つの式を選び、同じ式を選んだ人で小グループを形成し、その式がどのように立式されたかを考察する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>A <math>12x - 4(x - 1)</math></li> <li>B <math>4(x + 1) + 2x + 2x</math></li> <li>C <math>2(1 + 3x) + 2(x + 1)</math></li> <li>D <math>7x + 2x + 4 - x</math></li> </ul> </li> <li>● 全体で式を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの式も計算すると、<math>8x + 4</math>になることを考える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末で図形を操作し、問題の内容を視覚的に理解する。</li> <li>★ ホワイドボードツールを用いて、協働的に問題を解決する。</li> <li>★ 学習者用端末に配信されている、ヒントカードを選び、問題解決をする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時のまとめを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめを他者と共有する。</li> <li>・ 他者のまとめを見ながら、考えを深める。</li> </ul> </li> <li>● 個人の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ホワイドボードツールを用いてまとめを共有する。</li> <li>★ 学習者用端末に振り返りを入力する。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

生徒が学習者用端末を用いて、毎時間の学習の記録と振り返りを行い、他者と共有できるようにした。また、プリント、教科書、学習者用端末で操作できる図形等、生徒が問題解決をするために必要な教材を準備し、生徒が学び方を選択できるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



配布されたプリントと学習者用端末に配信された操作できる図形を選択し、工夫して活用した。その結果、意欲的に学習に取り組み、自分なりの考えをつくり上げることができた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



自身で選んだ問題について、ホワイトボードツールを用いながら、その式や文字 $x$ がもつ意味について話し合い、問題解決に取り組んだ。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

単元を通して、学習者用端末で毎時間の振り返りを蓄積することで、生徒が自分の学習状況を把握しながら、学習を進められるようにした。また、生徒の振り返りを教師が確認し、次時の学習時の助言や生徒の学習状況に応じた声掛けを中心にし、一斉での教授場面を少なくした。

# 中学校 理科 第3学年 「物体の運動」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動、力、エネルギーに関する科学の基本的な概念を理解し、自然の事物・現象を質的・量的な関係で捉え、身の回りの事象を科学的に探究しようとする態度を養うため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動とエネルギーに関する知識及び観察・実験の基本的な技能を身に付ける。</li> <li>見通しをもって実験を行い、その結果を分析・解釈し、力の合成・分解や力と運動の（慣性の法則など）規則性や関係性を論理的に見いだして表現することができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで「疑問に思ったこと」「もっと調べてみたいこと」を出し合い、探究課題を決定する。</li> <li>自分たちで決定した課題に対して、検証計画を立案する。</li> <li>グループで協力しながら実験を行い、記録した結果を基に意見を交換する。</li> <li>グラフや図を使って運動の特徴を視覚的に捉え、規則性を導く。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>力学的エネルギーの保存や運動の規則性などの知識を活用し、日常生活や社会における様々な現象について、科学的な根拠に基づき多面的に考察して判断することに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第9時）～第7時	第6時～第4時	第3時～第1時
<p>◎目標</p> <p>●学習内容</p>	<p>◎ 自分自身の疑問から新たな仮説を立て、これまでに身に付けた知識や技能を基に、実験計画を立案し、収集したデータをもとに検証する。</p> <p>● 自分が気になった物体の運動の様子や変化の仕方を問いとして言語化する。</p> <p>● 実験計画を作成し実施する。</p> <p>● 自分のデータを根拠に考察をまとめる。</p>	<p>◎ 等速直線運動の学習で身に付けた知識や技能を生かし、だんだん速くなる運動の実験を自分たちで条件設定しながら計画・実施できるようにする。</p> <p>● 習得の段階で身に付けた知識や技能を生かし、班ごとに条件を決め、実験計画を立てて実施する。</p> <p>● 物体が斜面を移動するときの規則性を見いだす。</p>	<p>◎ 記録タイマーを用いた計測・整理・グラフ化の技能を習得し、物体に力が働かないときには、運動している物体は等速直線運動を続ける性質があることを、自分のデータを根拠に説明できるようにする。</p> <p>● 調べたい運動を自分たちで決め、瞬間の速さを測定する。</p> <p>● 結果からグラフを作成し、時間と距離の関係を見いだす。</p> <p>● グラフを比較し、規則性を自分の言葉で説明する。</p>
<p>学習を自己調整する子供の姿</p>	<p>仮説とデータのずれに気付き、条件や手順を自分で見直す。</p> <p>仮説の妥当性を検証しようとする。</p>	<p>実験結果が想定と違う場合、条件を微調整しながら再測定する。</p>	<p>データに確信がもてない場合、再測定して修正する。</p> <p>他の班の結果を参照し比較して考えを調整する。</p>
<p>デジタルの活用</p>	<p>文書作成ソフト（考察の変化や仮説の修正履歴を、データで記録する。）</p>	<p>表計算ソフト（各班の実験の進捗状況を共有する。）</p>	<p>表計算ソフト（各班の実験結果を共有する。）</p>

## ◆本時：第4時／全9時間◆

### 本時の目標

斜面を動く台車の運動について、等速直線運動の実験で身に付けた知識や技能を生かして実験に取り組み、力が働くときの物体の運動についての規則性を見いだそうとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時までの学習内容を振り返り、これからの予定と課題を確認する。</li> <li>・ 前回の等速直線運動の実験の条件を確認しながら、次はどのような条件で実験を行うかを考え、全体で共有する。</li> </ul> <p>各自で計画した実験を行い、力が働くときの物体の運動についての規則性を見いだそう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 今後の単元の進め方や学習者が自律的に学ぶためのルーブリックを確認し、学習に見通しをもつ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題に取り組む順番を班で決め、実験を行う。</li> <li>・ 課題 A:だんだん速くなる運動 B:だんだん遅くなる運動</li> <li>・ 合計3時間で実験を行い、結果をまとめ、規則性を見いだす。</li> <li>・ 実験を複数回行い、検証する。</li> <li>・ 記録タイマーの結果を基にグラフを作成する。</li> <li>・ 規則性について自分の考えをまとめる。</li> <li>・ 二つの課題が終了したら、新たな仮説を立て、これまでに身に付けた知識や技能を基に、実験を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 進捗共有シートで、各班の選択した課題と進捗状況を共有する。</li> <li>★ 個人まとめをドキュメントで毎時間提出する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習活動を振り返る。</li> <li>・ 今後の活動がよりよくなるように振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 学習者用端末に、学習の振り返りを入力する。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

学習者用端末の進捗共有シートを用いて、他班がどの課題に取り組み、どの条件で実験しているかを確認できるようにした。自分の仮説と得られたデータのずれに気付いた場合、他班のデータや手順と比較しながら、条件の再設定や手順の微調整、追加の再測定などを自分で判断して行えるようにすることで、学習の方向を自ら調整できるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



自分たちで実験条件を決め、結果に応じて手順を見直し、より正確な結果が得られるように調整しながら実験を進める姿が見られた。自ら判断して改善を繰り返す姿が見られた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



班内で意見を出し合い、実験方法や条件を話し合っ決定し、結果に応じて手順を調整する姿が見られた。意見の違いを認め合い、納得できる方法を選び取ろうとする姿が見られた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

生徒の意見から課題を決め、単元を見通しながら主体的に学習を進められるようにした。結果の違いを手掛かりに考えを深められるよう支援し、教師主導ではなく判断を生徒に委ねる伴走者となることを意識した。

# 中学校 音楽 第2学年 「 曲想や歌詞、声部の役割との関わりを理解し、曲にふさわしい表現をしよう 」

## ◆題材の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す題材デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲想や歌詞の内容、声部の役割との関わりを理解する力を養うため。</li> <li>・ 曲にふさわしい表現を考えながら、歌唱表現の創意工夫をするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲にふさわしい表現ができるようになる。</li> <li>・ 音源を選択したり練習方法を工夫したりするなど、自ら学びを調整する力を身に付けることができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合唱の様子を録画し、旋律、強弱等を意識しながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</li> <li>・ 曲想や歌詞の内容、声部の役割と全体の響きなどの関心を持ち、《合唱練習》《パート練習》《4人1組練習》を組み合わせて、合唱の活動に取り組む。</li> <li>・ 合唱の様子を録画を振り返り、自身の達成度を考えながら、合唱の活動に取り組む。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽的な思いや意図をもつことができる資質・能力を養い、今後の音楽的な諸活動に生かす。</li> <li>・ 音楽的な諸活動に際して、デジタルを活用するなどして、自ら発声や歌声を確認しながら、自ら学びを調整する力を養うことに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時(第8時)・第7時	第6時	第5時・第4時	第3時～第1時		
<p>◎目標</p> <p>●学習内容</p>	<p>◎ 曲にふさわしい表現で歌唱できる。</p> <p>● 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う。</p>	<p>◎ 合唱の活動を通して、曲にふさわしい表現をすることができる。</p> <p>● 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p>	<p>◎ 曲を聴いたり、楽譜を読んだりする活動を通して、音楽の要素や声部の役割について理解する。</p> <p>● 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解する。</p>	<p>◎ 曲を聴く活動を通して、難しい箇所などを確認して学習に見通しをもち、音楽を形づくっている要素とその働きについて捉えることができる。</p> <p>● 音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などを関連付けて考える。</p>		
<p>学習を自己調整する子供の姿</p>	<p>第2時と最終時を聴き比べ、自己の歌唱表現の違いに気付いている。</p>	<p>4人1組で工夫した部分を歌い試したり、できないところについてアドバイスを送り合ったりしながら、歌唱表現を工夫している。</p>	<p>共有を通して、楽曲に対する考えや歌い方の工夫をしている。</p>	<p>合唱の録画を聴いて、練習計画を立て実行する。合唱表現を工夫しながら歌唱している。</p>	<p>前回、パート練習で振り返った内容を共有し、練習計画を立て実行する。合唱して新たな課題を見付けている。</p>	<p>パート練習で音源に合わせて歌う。自身の進捗状況について振り返っている。</p>
<p>デジタルの活用</p>	<p>撮影機能(動画を撮影し、自身の歌を振り返る。) / 再生機能(必要なタイミングで曲を聴く。) / 共有機能(歌い方の工夫を生徒間で共有する。) / 表計算ソフト(振り返りを入力する。)</p>					

## ◆本時：第1時／全8時間◆

### 本時の目標

- 曲を聴く活動を通して、難しい箇所などを確認して学習に見通しをもち、学びを調整することができる。
- パート練習を工夫することで、前半部分の曲にふさわしい表現（強弱、速度、発音など）の意図を明確にし、全体の響きや他の声部との調和を意識しながら、前半部分を歌おうとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の予定と目標について確認して見通しをもつ。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発声練習を行う。</li> </ul> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習についての見通しをもつ。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲を聴いてこれからの練習で課題になりそうな箇所について、楽譜に書き込む。</li> <li>・ 思いを共有するため、ペアワークによって、楽譜の書き込みを共有する。</li> </ul> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● パート練習を通して前半部分を歌えるようにする。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習方法を共に考えながら、何度も歌って習得する。</li> </ul> </li> </ul>	★ デジタル音源を活用して、思考錯誤しながら学びを調整する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 進捗状況を確認する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パート会議を行い、状況を整理する。</li> <li>・ パートリーダーが進捗状況を全体に報告する。</li> <li>・ 教師がよかった練習についてフィードバックし、全体で練習方法を確認する。</li> <li>・ 振り返りを行う。</li> </ul> </li> </ul>	★ 表計算ソフトを用いて、振り返りを記録する。

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

学習者用端末を活用し、生徒が必要なタイミングで音源を聴くことができるようにした。CDでの練習よりも操作性が向上し、練習方法を相談しながら考える時間が確保できた。また、振り返りをデジタルで残し、次の時間のパート会議の材料にすることで、生徒自らが達成度を評価し、次の目標を定めるという循環が生まれ、主体性につなげることができた。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



参考となる動画や資料等を提示し、学習のゴールや計画について見通しをもつ時間を十分に確保することで、自身がどのように題材に取り組んでいけばよいか考えていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



音源を活用しながら、それぞれのパートで意見を出し合い、パートリーダーが意見を集約することで、生徒自身で歌い方の工夫を見いだしていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

生徒が学びを調整するために、身に付けて欲しい力を明確にしたうえで、生徒の振り返りを確認しながら、授業を行った。教師が学びを主導するだけでなく、生徒の状況を取り入れた題材デザインを基に、伴走するファシリテーターとしての役割を意識した。

# 中学校 美術 第1学年 「 見つめ、感じ取り、描く 」

## ◆題材の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す題材デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>素描を通して、基礎的な観察力を養ったり、観察したことから物の形を捉え表現する力を高めたり、造形的な視点で見る力を向上させるため。</li> <li>形や色彩、光の方向などを理解し、適切な技法や道具の使い方を身に付けるため。</li> <li>対象を観察し、構図や表現方法を工夫しながら、自分の考えを造形的に表すため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象の形や光、陰影を観察し、立体感や質感を表現する方法を学び、様々なものを造形的な視点から捉えることができる。</li> <li>形や色彩、光の方向などを理解し、適切な技法や道具の使い方を身に付け、対象を観察し、構図や表現方法を工夫しながら、自分の考えを造形的に表すことができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞から表現方法や工夫に気付き、その技法で段階的に素描を描く。</li> <li>素描の段階を踏まえ、大まかな形や光の方向を捉え、色分けしたり、形を修正したり、質感などを考えながら細部を描き込む。</li> <li>鑑賞を通して、学級の多様な工夫点などに気付き、造形的な視点から見る力を深める。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本題材で身に付けた観察力や表現力等から、日常生活において対象を造形的な視点から見ることに生かす。</li> <li>自分の考えを造形的に表す際に、適切な技法や道具を選ぶことに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第6時）・第5時	第4時	第3時	第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 他者との鑑賞を通して、形や陰影、タッチ等の工夫を見付ける。 ● 全体のバランス、立体感や細かい描写の確認をしながら完成させる。	◎ 光と陰影を工夫し質感豊かに描くことができる。 ● 質感・陰影の表現を工夫し描写に深みをもたせる。	◎ 大まかな形を捉え、光の方向を意識し色分けができる。 ● モチーフの観察・構図の決定と下描きを行う。	◎ 観察、比較して形・陰影を描くことができる。 ● クロッキー（モチーフの観察、構図決め）の練習を行う。	◎ 作品鑑賞から表現方法や工夫に気付き、その技法で段階的に素描を描くことができる。 ● 作品を鑑賞し、鉛筆の調子練習と構成の基礎を学ぶ。
学習を自己調整する子供の姿	自分の作品について、全体のバランスを見ながら、作品をよりよくするために必要な技法を考え、自ら濃淡や陰影の修正を行っている。 他者の作品や模範作品と比較しながら、自分の作品との課題を見付けようとしている。			ペア活動などから自分が制作したクロッキーと、他者のクロッキーを比較し、課題を見付けようとしている。	自分が見たい資料を選択して、繰り返し確認している。
デジタルの活用	検索機能（技法を調べる。）／共有機能（過去の作品を共有する。）／学習動画（資料集の二次元コードから見られる動画資料等で、技法を確認する。）				

## ◆本時：第1時／全6時間◆

### 本時の目標

作品鑑賞から表現方法や工夫に気付き、その技法を使い段階的に素描を描くことができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品を見て、課題に対してのイメージを広げる。</li> <li>・ 本時の目標と流れを理解する。</li> </ul>	
<p>作品鑑賞から表現方法や工夫に気付き、その技法を使い段階的に描くことができる</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 光の方向や形の捉え方、技法や道具の使い方などを身に付ける。</li> <li>・ 学習者用端末や教科書・資料集、教師が描いた実物、他者との意見交換、教師の支援などから学び方を選択する。</li> <li>・ 鉛筆の持ち方を確認し、描き方（調子〈面の表現〉やハッチング〈線の表現〉）を実際に描く。</li> <li>● 描いたものや習得した知識を伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 技能を習得するために、生徒が学び方を選択する。</li> <li>① インターネット検索</li> <li>② 過去の作品を共有したデジタル掲示板</li> <li>③ 学習動画</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品を鑑賞し、描画を見たり、動画を視聴したりする活動を通して、実際に描く中で気付いた表現方法や工夫を振り返り、その技法で段階的に描けたかを文章にまとめる。</li> </ul>	

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

参考作品を生徒が選んで見ることができるようにした。デジタルで作品を共有することにより、生徒が参考にできる作品を増やすとともに、必要な部分を拡大して観察するなど、表現したい方法を生徒が自ら確認しながら、製作を進めることができるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



技能を習得するための方法をインターネット検索や過去の作品の鑑賞、動画視聴、教師に聞くなどから自分で学び方を選択し、製作を進めていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



デジタル上で作品を共有するだけでなく、実際に実物を提示することにより、実物を見て気付いた表現や工夫を、ペアまたは3人で伝え合い、共有する姿が見られた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

教科書や資料集だけでなく、学習者用端末の活用、さらに教師による支援を組み合わせ、生徒に学びの選択肢を準備した。よりよい作品制作のために、生徒が自ら学習方法を選択し、学習の進め方を調整できるようにすることを重視した。

# 中学校 保健体育 第2学年 「 バレーボール 」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームにおける判断や、ボールの軌道や相手の動きに応じて、自己の動きを工夫したり、選択したりする力を身に付けることで、より積極的に運動に取り組み、基本的な技能を高めるため。</li> <li>個人の技能やチーム戦術を試行錯誤したり、課題解決に向けてその方法を論理的に考えたりすることで、学びを自分事として捉えるようにするため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボール操作で巧緻性を高めることを学び、状況に応じて仲間が受け取りやすく、相手には受け取りにくいボール操作を選択できるようになる。また、技能の習得とともに、戦術的な判断力を身に付け、仲間と協働する態度を高めることができる。</li> <li>仲間や相手の動き、場の状況を的確に観察する方法を学び、それにに応じて身に付けた技能を選択し、活用できるようになる。また、協働的に課題を解決しようとする力を身に付けることができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末を活用し、課題に対して自己及びチームで情報収集し、学習の見通しを立てて学ぶ。</li> <li>現段階の自己及びチームの習熟度を踏まえ、何ができるかを考えながら、学習を自分事として捉える。その中で、自ら課題を発見し、改善することで、自己及びチームに合った学習の進め方を選び、工夫して学ぶ。</li> <li>自己及びチームの課題に基づいて決定した内容を仲間と共有し、互いの考えや取組を認め合いながら、協働的に学びを深める。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の技能やチーム戦術の課題に対して、仲間や相手の動き、場の状況を観察し、その情報を基にどのように自己の動きを調整するかを考えながら、仲間と協力して行動する。その過程で、身に付けた技能や戦術をゲーム等で生かすとともに、将来のスポーツ活動や健康づくりに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第10時）～第8時	第7時～第4時	第3時～第1時
<p>◎目標</p> <p>●学習内容</p>	<p>◎ ゲームを通して、自己の役割を果たす。</p> <p>● 自己やチームの特徴を踏まえ、戦術を組み立て、自己の役割を果たす。</p> <p>● 本単元の学習内容を振り返る。</p>	<p>◎ チーム戦術を活用して、空いたスペースで攻防するために自己やチームの課題を発見し、改善する。</p> <p>● ネット型に共通する動きを身に付ける。</p> <p>● 仲間と連携した動きでゲームを展開する。</p> <p>● 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間伝える。</p>	<p>◎ 基本のボール操作の技能を身に付ける。</p> <p>◎ 自己やチームの課題を捉えて、自分にできる役割を見付ける。</p> <p>● 用具の使用方法を理解する。</p> <p>● 基本的なボール操作を身に付ける。</p> <p>● 基本的なボール操作を活用した簡易なゲームを行う。</p>
<p>学習を自己調整する子供の姿</p>	<p>チームのスキル向上のためにゲーム中の動画を撮影し、作戦ボードを使って仲間と話し合いながら、ポジションや動きの役割分担を決め、戦術を組み立てて次のゲームに生かしている。</p>	<p>空いたスペースで攻防するための課題を解決するために、動画資料、自分で撮影した動画で、自己やチームの技能や戦術を振り返り、作戦ボードを使って、仲間と話し合いながら戦術を組み立て、次のゲームに生かしている。</p>	<p>ボールの基本操作に焦点を当て、技能を高めるために動画資料、自分で撮影した動画で自己の技能を確認し、改善点を見つけて改善を図っている。</p>
<p>デジタルの活用</p>	<p>共有機能（チームで考案した練習方法や戦術を整理・共有する。）／</p> <p>撮影機能（撮影した動画を視聴し、自己やチームの技能及び戦術を振り返る。）／</p> <p>学習動画（見本となる動画を参考にし、自己やチームの技能及び戦術を比較する。）</p>		

## ◆本時：第3時／全10時間◆

### 本時の目標

ゲームにおいて得点をするため（攻撃）や、得点をされないため（守備）に、自己やチームの課題を捉えて、自分にできる役割を見付けることができる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の目標を共有する。</li> <li>● 既習内容から、自己の体調に応じて、個別で運動を選択したり、学習者用端末を活用したりして、特性に応じた動きを高める。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストレッチ、動きづくり、補強運動を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 動画資料、共有資料を用いて多様な選択肢から自分自身で学びの方向性を検討する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以下の基本的なボール操作を選択し、課題を改善する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パス</li> <li>・ スパイク</li> <li>・ サーブ</li> </ul> </li> <li>● 自己及びチームの状況に応じた空いたスペースをめぐる攻防のための有効な戦術を考える。</li> <li>● 自己の戦術における役割を発見する。（ゲーム）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 撮影機能、動画資料、共有資料等、多様な選択肢から自分自身で学びを深める方法を選択し、自己決定する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習内容を振り返る。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気づき、まとめを入力し、それぞれの学びを瞬時に共有する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 共有機能で仲間の意見を参照し、ポイントを整理し、次回の学びに生かす。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

「自己及びチームの課題を発見し、どのように改善できるか」を考えられるよう、動画資料、自分で撮影した動画、情報共有などを課題に応じて選択・活用できる環境を整えた。デジタルを「自分たちの学びを深め、調整するための手段」として位置付け、振り返りや話し合いを促し、次の学びにつなげた。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



学習者用端末を活用して、自身の課題に応じた解決方法を検討し、学習に取り組んでいた。  
チームの課題解決のために、自分にできることを考え、解決までの方法を選択・決定していた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



ペアやグループで取り組むことで、自己の課題でも共通の課題でも、必然的に対話が生まれ、課題に対する視野が広がり、対話を通して考えを深めていた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

本時のねらい、単元のゴールをデジタルで共有し、共通認識を図った。また、ねらいの達成に向けてどのように解決していくか、学び方を生徒に委ね、生徒の行動に価値付けを行いながら形成的評価を継続的に実施した。

# 中学校 外国語 第2学年 「What is important in a homestay?」

## ◆単元の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す単元デザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異文化に関する理解を深めることで、日本の生活習慣や外国とのマナーの違いを理解するため。</li> <li>自国の生活習慣やマナーをよく知り、それを適切な英語で表現することで、円滑にコミュニケーションを行う力を身に付けるため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>have to、助動詞 must、動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、ホームステイ先での体験談の概要を捉え、アドバイスや自分の考えを伝えることができる。</li> <li>日本と海外の生活習慣や文化の違いを学び、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて発表することができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の生活習慣やマナーやホームステイ先で取るべき行動について情報を整理する。</li> <li>デジタル教科書やオンラインアンケート・問題作成機能を用いて、身に付けた知識の理解度を、自分で確認しながら学ぶ。</li> <li>よりよい発表となるように共有されたコメントやアドバイスを確認しながら学ぶ。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な外国人（ALT）や、海外から来た人に対して、日常生活や学校の中でのルールを英語で表現する場面において、本単元で学んだ表現を生かす。</li> <li>身近な外国人（ALT）や、海外から来た人に対して、相手の趣味や好みを踏まえて一緒に楽しみたいことを考え、相手に自分の気持ちを英語で表現することに生かす。</li> </ul>

### 探 究

### 習 得

時間	最終時（第10時）	第9時～第7時	第6時～第2時	第1時
◎目標 ●学習内容	◎ 日本の生活習慣やマナーやホームステイ先で取るべき行動を説明するために、スライドを用いながら発表することができる。 ● スライドを用いて発表する。 ● 他者の発表を聞いて、評価をする。	◎ 海外からの留学生に合ったアドバイスを考え、自己の課題を設定し、分かりやすい発表をすることができる。 ● 海外からの留学生に合ったアドバイスを考え、発表原稿を考え、スライドを作成する。	◎ 海外でのホームステイのルールや体験談の概要を捉えることを通して、自分の考えを伝えることができる。 ● have to、助動詞 must、動名詞を用いた文の形・意味・用法を確認する。	◎ 単元の最後の学習活動に向け、学習について見通をもち、自分の意見を書くことができる。 ● 単元末の学習活動を確認し、既有知識及び学習計画を確認する。
学習を自己調整する子供の姿	相手意識をもちながら発表を行う。本単元でできるようになったことや日常生活のどんな場面で活用できるかを考える。	スライドや動画を他者と共有する中で、発表内容を検討し、生徒自身が自分に必要な手だて（音声入力機能、字幕機能、AIを活用した添削機能など）を選択しながら学習を進める。	アンケート機能で作成した確認テストを活用し、子供が自分の学習状況を確認しながら、自分のペースで学習を進める。	単元末の学習活動を確認し、見通しをもって学習に取り組む。
デジタルの活用	スライド機能／アンケート機能（発表のコメント、振り返り）	スライド機能／共有機能（動画の投稿、教員のアドバイス）／発表改善のためのツール（AIを活用した添削機能、字幕機能、音声入力機能等）／アンケート機能（振り返り）	デジタル教科書／アンケート機能（確認テスト、振り返り等）	アンケート機能（振り返り）／共有機能（子供が自律的に学ぶためのルーブリックの提示・共有）

## ◆本時：第9時／全10時間◆

### 本時の目標

日本の生活習慣やマナーやホームステイ先で取るべき行動を説明するために、海外からの留学生に合ったアドバイスを考え、発表しようとする。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 帯活動を行う。(Q and A)</li> <li>● 前時の振り返りをする。</li> <li>● 本時の全体の目標を確認する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共有フォルダの自分の動画を見て、教師からのアドバイスを確認する。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           アドバイスを元に、より分かりやすい発表をしよう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個々の目標を確認する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表をよりよくするための方法が記載されたスライドを参照し、自分に合った改善方法を探す。</li> <li>・ 本時の目標を踏まえて、個々に活動内容を決める。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 教師からのアドバイス（動画のコメント機能）を確認する。</li> <li>★ 再検討する項目に対して考えられる改善方法を選択し、生徒が自分に合った方法（音声入力機能、字幕機能、AIを活用した添削機能、他者参照等）で改善のための活動を考える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発表内容を再検討する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間評価を元に、個人で発表内容の再検討を行う。</li> </ul> </li> <li>● 発表の練習をする。</li> <li>● 再録画をする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペア、またはグループになり発表を録画し合い、共有フォルダに提出する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 動画（ベストテイク）を共有フォルダに再提出し、他の生徒の動画を視聴し、アドバイスをする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 録画した内容を前時と比較する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の動画を見て、どのような工夫が見られるかを確認し、よかった点などをコメントする。</li> </ul> </li> <li>● 本時の振り返りを行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工夫（前回との比較）、学習手段、次時の目標について振り返りを行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 同じグループの生徒の動画を視聴し、よい点や改善点をコメントする。</li> <li>★ アンケート機能で、本時の学習を振り返る。</li> </ul>

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

単元の第1時において、単元末の学習活動の内容と、学習者が自律的に学ぶためのルーブリックを確認することで、生徒に学習の見通しをもたせるようにした。また、最終の発表活動の前に、教師が中間評価を行うとともに、生徒自身も自己評価をし、生徒が自分の課題を認識しながら、最終の発表に向けて発表内容や方法を改善できるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



中間評価の結果をもとに、発表をよりよくするための方法が記載されたスライドを参照し、自分に必要な手だてを活用して発表内容の改善に取り組んだ。

### 他者と協働し、考えを深める姿



動画を共有フォルダに投稿することで、他の生徒の動画を視聴しながら互いにコメントし合う中で、よりよい発表に向けてのヒントを得ることができた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

習得の段階では、生徒が自分のペースで理解度に応じて学習を進めることができる環境を整え、教師が個別に指導・助言をする時間を捻出した。探究の段階では、改善のための手だてを複数提示することで、生徒自身が学びの手段を選択できる環境を整え、生徒の主体的な学習を支援した。

# 中学校 特別の教科 道徳 第1学年 「自分にとっての友情とは」

## ◆主題の目標を踏まえた子供の主体的な学びを促す主題のデザイン◆

<p><b>【なぜ学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友情が相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にあるということに気付き、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切しながら人間関係を深めるため。</li> <li>・ 友情の大切さを継続的に学び、生徒の実践につなげるため。</li> </ul>	<p><b>【何を学び、何ができるようになるか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友情についての友達と自分の考えの相違点を考え、友情とは何かについて自分なりの考えをもつことができる。</li> <li>・ 友情に関するこれまでの学習を自己の中で統合するとともに、本時の道徳的価値を多面的・多角的に考え生活に生かすことができる。</li> </ul>
<p><b>【どのように学ぶか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルノートに友情についての考えを記入できるようにし、継続的に自分の考えを書いたり、振り返ったりしながら、自分の考えをまとめる。</li> <li>・ デジタルノートの共有機能を活用し、学級全体の意見を確認することができるようにし、友情について多面的・多角的に考える。</li> </ul>	<p><b>【どのように生かすか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達との葛藤や対立が起きたときに、その友達の本心が何かを考え、葛藤や対立を乗り越えることで、より一層深い友情を築くことに生かす。</li> <li>・ 友情についての学びの蓄積やつながりを自覚し、他の道徳の学習や実践に生かす。</li> </ul>

探 究

習 得

時間	最終時（第3時）	第2時	第1時
◎ねらい ●学習内容	◎ 赤おにのために自分を犠牲にする青おにの姿を通して、友情の尊さを理解し、信頼できる友達をもち、大切にしようとする道徳的判断力を育てる。 ● 第1・2時の学びを生かし、「泣いた赤おに」において、友情についての考えを深める。	◎ ヤコブの生き方を通して、温かな人間愛をもって相手の立場に立って考えることの大切さに気付き、思いやりの心をもって接していこうとする道徳的心情を育てる。 ● 「カーテンの向こう」において、相手の立場に立って考えることの大切さや思いやりの心をもって他者と接することについて考える。	◎ 主人公の「僕」と美咲が育んできた関係性や僕の思いを通して、相互に変わらない信頼があってこそ友情が成り立つことに気付き、友達を大切にしようとする道徳的心情を育てる。 ● 「親友」において、心から信頼できる友達とは、どんな存在であるかを考える。
学習を自己調整する子供の姿	自身の思考の状況に応じた他者参照をする。 多様な考えの存在を認識し、自身の友情についての考えを深める。		
デジタルの活用	デジタルノート(自分の考えを書く。)／共有機能(他者の意見を確認する。)		

※ 本実践では、第1時・第2時で考えたことを「習得」として捉え、第3時で考えを深める「探究」として単元デザインを考えた。

## ◆本時：第3時／全3時間◆

### 本時の目標

赤おにのために自分を犠牲にする青おにの姿を通して、友情の尊さを理解し、信頼できる友達をもち、大切にしようとする道徳的判断力を育てる。

### 本時の流れ

●学習内容 / ・学習活動	★デジタルの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入でこれまでの学習を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「友情」「思いやりの心」を踏まえて、学習問題を設定する。</li> </ul> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材を読み、考え、話し合う。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材で印象に残ったところを考える。</li> <li>・ 赤おにと青おにの間には友情が成り立っているかを考える。</li> </ul> </li> <li>&lt;成立している&gt;                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青おには赤おにのために思っているから</li> </ul> </li> <li>&lt;成立していない&gt;                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お互いに幸せではないから</li> </ul> </li> <li>● 友情についての考えを深める。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分と近い意見、異なる意見のどちらにも触れ、考えを深める。特に、自分とは異なる意見に対して、質問したいこと、気になることを考える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ デジタルノートに自分の考えを、友情が成立「している(ピンク)」「していない(緑)」で色分けして書く。</li> <li>★ デジタルノートの内容を参考にしながら、意見交換をする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「誰と」「何人と」「見る」「聞く・話す」等の学び方は自分で選択する。</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で考えたことをワークシートに書く。</li> </ul> </li> </ul>	

### ◆子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶための工夫◆

発問に対してデジタルノートで考えを記述することで、言葉を吟味しながら自らの考えをまとめることができるようにした。

全員の考えをデジタルノート上で共有することで、自分のペースで他者の意見を参考にしながら、考えを広げることができるようにした。

### 子供が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿



デジタルノートで記述することで書き直しや書き足しを容易にし、熟考して自分の考えをまとめていた。他者の意見を瞬時に共有でき、参照しながら考えていた。

### 他者と協働し、考えを深める姿



デジタルノートで他者の意見を見ながら活発に話し合いをしていた。他者との意見交換を通し、自分の考えを深めることができ、考えが変容する姿も見られた。

### ◆授業において意識した教師の役割◆

教師が主導して授業を展開するのではなく、生徒同士が目的意識をもち、意見を交わすことを通して考えを深められるような発問構成にした。その上で教師は、新たな視点を与えることや生徒の対話の時間を確保するよう心掛けた。

# 特別委員資料

## デジタルを活用して主体的に学習に取り組む子供をどう育成するか

青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授 北澤 武

### 1. 「主体的に学習に取り組む」とデジタルの活用について

本年度の研究主題は、昨年度に引き続き「主体的に学習に取り組む子供の育成」とした。これに「デジタルの活用」という視点を加え、自ら学習を調整しながら主体的に学習に取り組む子供像、並びに自らの授業を振り返り、主体的に授業改善に取り組む教師像の実現を目指した研究である。

昨年度の特別委員であった東京大学名誉教授・市川伸一氏の講演資料を振り返ると、「主体的な学び」の定義および「主体的な学び手へと成長するプロセス」について整理がなされている。主体的な学びの定義としては、2016年12月に公表された中央教育審議会答申に示された、「学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか」という記述が挙げられ、このような学びを目指す意義、十分に実現がなされていない現状が指摘されていた。

また、「主体的な学び手へと成長するプロセス」としては、「習得（予習—授業—復習）」と「探究（表現—授業—追究）」の2つのサイクルを結びつけたモデルが提示されるとともに、学習者自身が多様な学び方を経験しながら、自分にとって最適な学びを選択、判断していくことの重要性が述べられていた。

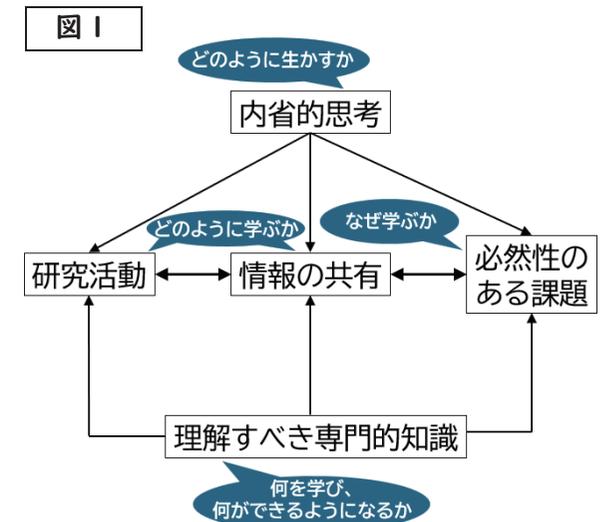
子供によるデジタルの活用は、それ自体を目的とするものではなく、上述した「主体的な学び」及び「主体的な学び手へと成長するプロセス」を支援するための道具として位置付けられるべきである。ひいては、子供が自ら課題を見だし、学びのプロセスを決定しながら、主体的にデジタルを活用して問題解決に取り組む探究的な学びの姿が求められる。

### 2. 学びの共同体の活動構造

子供がデジタルを活用しながら自ら学習を調整し、主体的に学ぶようになるためには、教師はどのような授業をデザインすればよいだろうか。この問いに対する1つの理論的手がかりとして、ブラウンら（1996）が提唱した「学びの共同体の活動構造」が挙げられる（図1）。

ブラウンらは、子供の「知識構築」と「知識創造」を支援する授業を実践する上で重要な要素として、次の5点を示している。第一に「必然性のある課題」を明確にすること、第二に「理解すべき専門的知識」を明確にすること、第三に「研究（学習）活動」の方法を明確にすること、第四に「情報の共有」を行う方法を明確にすること、第五に振り返りを通して「内省的思考」を促すことである。

本研究では、「習得」の段階と「探究」の段階を接続するために、教師が「なぜ学ぶか」「何を学び、何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「どのように生かすか」という4点を明確にする授業デザインを行ってきた。本研究における「習得」は、ブラウンらが言う「知識構築」に対応



※吹き出しは筆者が加筆

し、「探究」は「知識創造」に対応する。また、「なぜ学ぶか」は「必然性のある課題」に、「何を学び、何ができるようになるか」は「理解すべき専門的知識」に相当する。

さらに、「どのように学ぶか」は「研究活動」および「情報の共有」に、「どのように生かすか」は「内省的思考」にそれぞれ対応づけられる。このように、本研究は、ブラウンらの「学びの共同体の活動構造」に理論的基盤を置いた研究であった。

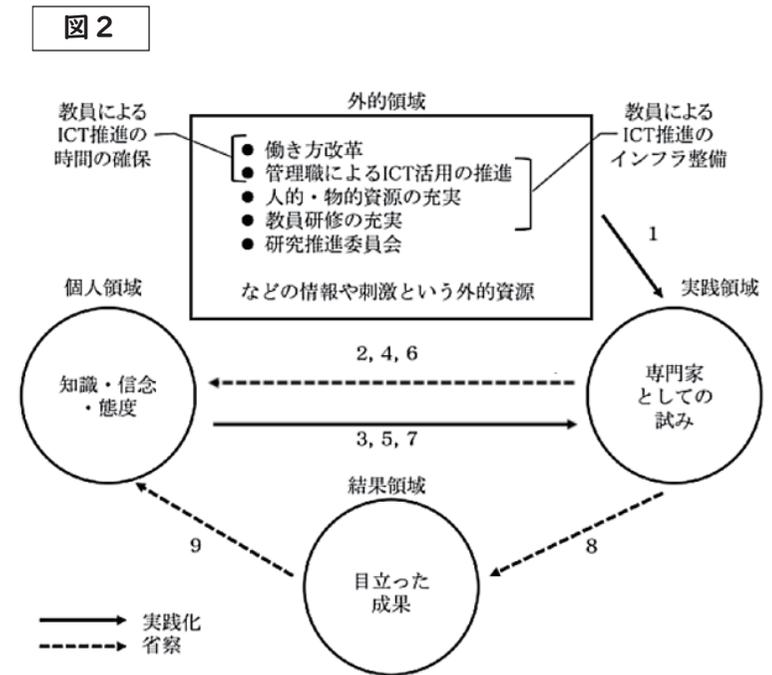
また、本研究におけるデジタルの活用は、前述した5つの要素を支援することを目的として位置付けられたものであり、そのための授業実践であった。加えて、本研究では、各教科等および単元の目標を達成するための「場づくり」にも着目した。これは言い換えれば、「学びの共同体の活動構造」全体を視野に入れた授業デザインの構築に挑戦した研究であったといえる。

### 3. 教師の主体的な授業改善と目指す児童像の関係

教師が、これまで十分に実践してこなかったデジタルの活用や新たな授業形態に挑戦するためには、教師自身の知識や信念の変容が求められる。豊田・北澤（2024）は、クラークら（2002）の相互連関モデルを参考に、都内公立小学校のICT推進校を対象として、教員のICT活用指導力を高めるための取組をモデル化している（図2）。

その結果、働き方改革等による「教員によるICT推進の時間の確保」や、教員研修の充実といった「教員によるICT推進のインフラ整備」という外的資源が、教師の「専門家としての試み（実践領域）」を促し、教師が自身の「知識・信念・態度（個人領域）」と行き来しながら実践を継続することで、子供が徐々に主体的に学習に取り組むようになるという「目立った成果（結果領域）」に気付く過程が示された。そして、その成果の認識が、再び教師自身の「知識・信念・態度（個人領域）」を変化させていく循環的なプロセスが明らかにされている。

本研究に尽力した教師もまた、他の教師と協働的に学ぶ環境の中で、自身の「知識・信念・態度」と「専門家としての試み」を往還させながら、デジタルを活用して主体的に学習に取り組む子供の変化を捉えていた。今後は、本研究で実践された授業の成果のみならず、授業が生み出されていく過程を共有しながら、教師の「専門家としての試み」を促進させる外的資源を継続的に提供していくことが課題である。



豊田・北澤（2024）を一部修正

#### 【参考文献】

- Brown, A. L., & Campione, J. C. (1996). Psychological theory and design of innovative learning environments: On procedures, principles, and systems. In L. Schauble & R. Glaser (Eds.), *Innovations in learning: New environments for education* (pp. 289-325). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates
- Clarke, D. and Hollingsworth, H. (2002) Elaborating a model of teacher professional growth. *Teaching and Teacher Education*, 18(8): 947-967
- 豊田大登, 北澤武 (2024) 相互連関モデルの外的領域に着目した ICT 活用指導力と価値観に関する研究. *日本教育工学会論文誌*, 48(4): pp.675-693

# 研究のまとめ

第1回定例会から第10回定例会までの場づくりの工夫 ～ゴールから考え、委員の声を取り入れながら運営した定例会～  
委員がオープン＆フラットな環境の中で対話を重ねながら、主体的に研究を進めることができるよう、次のような場づくりを行った。

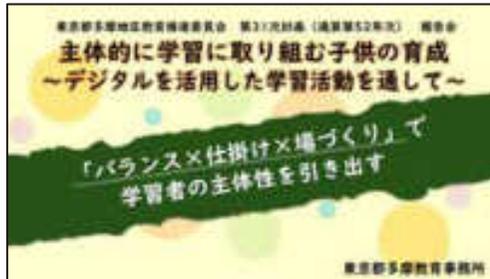
Goal!

2/13

## 第10回定例会

### 報告会

まとめの発表については、委員から希望者を募った。



#### デジタルを活用した情報共有の工夫

他者参照ができる状態のスライドを用いることで、他のグループの考えを知ることができるようにした。

11/10

## 第6回定例会

### 報告内容の検討

各グループで報告内容の検討をするとともに、グループを超えて提案内容についての意見を出し合った。



2/3

## 第9回定例会

### 報告会リハーサル

発表内容について、グループの枠を超えて委員の間で指摘し合う機会を設けた。



12/9

## 第7回定例会

### プレゼンテーションの作成

事前に作成した、報告内容の骨子を基にして、報告会で伝える内容の焦点化を図った。



1年を通して、

「なぜ学ぶか」

(小・図/中・美/小・体/中・保体/小・特)

「何を学び、何ができるようになるか」

(小・社/中・社/小・理/中・理)

「どのように学ぶか」

(小・算/中・数/小・音/中・音)

「どのように生かすか」

(小・国/中・国/小・外/中・外/中・道)

を中心に考える4グループで研究を進めた。

1/20

## 第8回定例会

### 報告会プレゼンテーションの改善

リハーサルを行い、プレゼンテーションの内容を練り直した。



#### 全体を意識する場づくり

大型モニターを使用してグループ協議を行った。大型モニターは、4グループがお互いの進捗状況を他者参照できるよう配置した。また、グループ間交流の時間を設け、各グループに残った委員が、他のグループから来た1名ずつの委員に対して、プレゼンテーションの内容を説明し、アドバイスを得られるようにした。

委員の声

グループを超えて、全体で提案を考えることもありではないかと感じました。

他のグループでの意見や考えが見えていない。他グループでは、検証授業を経てどのような考えにまとまっているのか知りたい。

10/9

第5回定例会

代表授業／検証授業の振り返り

代表授業を参観した後、各グループで検証授業の振り返りを行い、これまでの実践を踏まえて成果等を確認した。



検証授業（後半）の実施

授業デザインシートで構想した単元（題材）について、11回の授業を行った。協議会は、検証授業（前半）から、オープン＆フラットな環境としていたが、後半ではより校種や教科等を超えたグループならではの意見が出るようになった。

Start!

4/18

総会・第1回定例会  
講師講演

研究の方向性を確認した後、特別講師の北澤先生からデジタルを活用した授業デザイン等について学んだ。



8/26

第4回定例会

授業デザインシートの検討

後半の検証授業に向けて、最終時から単元（題材）デザインを検討した。



委員の声を取り入れた定例会運営

毎回の定例会の後、会の運営についてのアンケートを実施した。また、事務局全員で振り返りを行い、次の定例会の設計に生かした。

5/13

第2回定例会

アンケート項目協議／指導案検討

指導案の検討では、子供が自己調整をしながら学ぶことにつながっているか等について検討した。



対話を促進する場づくり



委員の対話を促進するために、検証授業の振り返りの掲示や机の配置を工夫した。協議内容に合わせたワークシート（模造紙等）を作成し、限られた時間で考えを深めることができるようにした。

7/18

第3回定例会

講師講演／検証授業の振り返り

子供が主体的に学習に取り組むために、教師にどのような役割が求められるか等、各グループの協議内容を共有し、対話を通して理解を深めた。



検証授業（前半）の実施、授業デザインシートの提案

7回の検証授業では、子供の学習の様子と教師の姿の両方を観察した。協議会では、オンライン会議システムを活用し、離れた場所から協議会に参加したり、記録をしたりすることに役立てた。協議会を行う中で、最終時の子供の姿（ゴールイメージ）から単元（題材）を構想することがよいのではないかという提案があり、授業デザインシート（P.46）を作成した。

令和7年度 東京都多摩地区教育推進委員会 授業デザインシート

1 単元（題材）名（教科書、副教材）

2 単元（題材）の目標

3 デジタルを活用しながら自ら学習を調整する子供の姿

単元（題材）における、デジタルを活用しながら自ら学習を調整する子供の姿を書く。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 単元（題材）デザインの視点

【なぜ学ぶか】

・  
・  
・

【何を学び、何ができるようになるか】

・  
・  
・

【どのように学ぶか】

・  
・  
・

【どのように生かすか】

・  
・  
・

教師の指導内容を羅列するのではなく、子供が主語となるように書く。学習指導要領を基にして、授業を行う子供の実態を考慮し、教師自身が自分の言葉で書くことが大切である。

6 最終時から考える単元（題材）デザイン

習得・探究	時	学習を自己調整する子供の姿	◎ 目標 ● 学習内容 ・ 学習活動	デジタルの活用 (学習者用端末の活用)	評価規準/ 評価方法
	最終時 ～ 第〇時				
	第〇時～ 第〇時				
	第〇時～ 第1時				

最終時から単元（題材）をデザインする。単元（題材）を大きく、習得の段階、探究の段階に区切った後、子供に学びを委ねる時間を意図的に設定していく。

7 本時（全〇時間中の第●時）

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

時間	●学習内容・学習活動	・指導上の留意点配慮事項 ★デジタル（学習者用端末）を活用した学び	評価規準/ 評価方法

本時の展開において、子供が自分の学習を調整するために、どのようにデジタルを活用するのかについても明確にする。

(3) 授業観察の視点 ※ 事前・事後調査の項目を意識する。

## ● 検証授業実施前後の子供の実態

検証授業の実施前と実施後に子供に以下の項目で調査を行った。調査は、事前・事後調査の両方に答えた子供の回答を有効回答とし、分析をした。有効回答数は、704である。

項目①～⑥は、「学びに向かう力等に関する意識調査」の調査項目を参考にした。項目⑦～⑩は、本研究において、単元（題材）デザインをする際に意識した4視点である、項目⑦「なぜ学ぶか」、項目⑧「どのように生かすか」項目⑨「何を学び、何ができるようになるか」、項目⑩「どのように学ぶか」の重要性を検証するために本委員会で作成した調査項目である。

### 【調査項目】

※ それぞれの項目について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の4件法で回答

- ① 友達や先生と学習するのが楽しい。
- ② どうやったらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。
- ③ 学習の途中で、分からないところやできないところはどこかを考えている。
- ④ 学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。
- ⑤ 他の人と相談して、考えを深めるようにしている。
- ⑥ 学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。
- ⑦ （事前：教科、事後：単元（題材））を「なぜ学ぶか」を伝えることができる。
- ⑧ （事前：教科、事後：単元（題材））で学んだことが日常生活にどのようにつながるかイメージできる。
- ⑨ 目標を確認して学習に取り組み、学習した内容を自分の言葉で伝えることができる。
- ⑩ 友達との関わりを通して、学び方を広げることができる。

事前・事後調査を比較すると、10項目全てにおいて、「当てはまる」と答えた割合が増加した。

項目	①	②	③	④	⑤	⑥
事前	67.8%	37.8%	46.7%	36.1%	51.9%	35.5%
事後	68.8%	45.8%	53.5%	40.8%	56.0%	40.8%
	1ポイント増	8ポイント増	6.8ポイント増	4.7ポイント増	4.1ポイント増	5.3ポイント増
項目	⑦	⑧	⑨	⑩		
事前	21.3%	31.9%	31.7%	50.7%		
事後	30.4%	38.9%	41.5%	56.0%		
	9.1ポイント増	7.0ポイント増	9.8ポイント増	5.3ポイント増		

事前・事後調査の全ての項目において、項目同士を組にして相関係数を算出し、相関係数が0.4から0.7の場合を中程度の正の相関が見られるとし、分析を行った。中程度の正の相関が見られたのは、事前調査で14組、事後調査で25組であった。

事前調査では、自己調整に係る項目④「学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。」について、本研究の4視点を検証する項目⑨との間にのみ中程度の正の相関が見られたが、事後調査では、項目④について、本研究の4視点を検証する全ての項目（⑦、⑧、⑨、⑩）との間に、中程度の正の相関が見られた。

## 子供の主体的な学びを促す単元（題材）デザインの有効性

1 単位時間ずつ授業を考えるのではなく、知識及び技能を確実に「習得」する段階と子供が自分の課題を設定し能動的に「探究」する段階双方を位置付け、最終時の子供の姿からデザインすることにより、子供が自分で学習を調整しながら主体的に学ぶことを意識して、単元（題材）を構想することができた。

### 【委員の声】

単元を「習得」と「探究」の段階に分けることで、子供がゴールを目指していく過程をより細分化し、スモールステップでデザインすることができた。

単元の目標を踏まえ、「なぜ学ぶか」「何を学び、何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「どのように生かすか」の4点を、子供を主語として整理した。これにより、単元（題材）をデザインする際に、教師が何を指導するのかという視点から、子供が何を学ぶのかという視点に授業観を変化させることができた。

なぜ学ぶか、学ぶ意義を子供がどのように実感するか等の視点で教材研究をするようになった。

## 子供が自ら学習を調整し、主体的に学ぶためのデジタルの活用の有効性

毎時間の振り返りや板書の記録等、子供が学びを蓄積することで、自ら学習を振り返り試行錯誤するなど、学習を調整する姿が見られた。また、教師は、デジタルによる子供の学習の履歴を確認しながら、個に応じた指導・助言・支援に役立てた。

教師がデジタルの活用を指示するのではなく、子供が自分でデジタルを活用する場面や内容を選択できるようにすることで、目的に沿った活用を判断する機会となり、自ら学習を調整することに有効であった。

過去の資料にいつでもアクセスできることや考えを共有し、随時、他者参照できることなどの手だてを打てば、それぞれの学びを深めることができた。

教師は、デジタルを活用することにより、子供の学びの状況を瞬時に把握することができるようになった。これまでノートを回収して、授業後に行っていた教師のフィードバックを授業中に即時に行うことができたため、授業内で、子供の理解につながる場面が増えた。

子供が個別にデジタルを活用した学びに取り組む中で、子供のつまづきを授業内でフォローをする余裕が生まれた。

## オープン＆フラットな環境を重視した場づくりの有効性

定例会後に委員にアンケートを行い、結果を定例会の運営に生かしたことにより、年度当初に立てた研究計画から定例会の内容を変える必要があった。しかし、委員が考えている内容に沿った定例会等の運営をすることで、協議が活発になり、委員の主体性を引き出すことができた。

委員の考えや伝えていきたいことを出発点として、柔軟に進行していただき、大変充実していると思います。

授業デザインシートを切り口に、校種や教科等が異なるグループで検証授業の協議をすることにより、検証授業終了後も授業を継続的に振り返り、主体的に授業改善をしていた。また、中央教育審議会の資料や特別委員から紹介された書籍を読むなど、委員の自ら学ぶ意欲が高まっていた。

当初設定していた「目指す教師像」は、実践を経て次のように変わっていった。

### 本研究を通して見られた教師の姿

学習者主体の単元（題材）デザインを考えることを通して、自らの授業を継続的に振り返りながら学び続け、授業改善に取り組む教師

# 委員名簿

## 委員長

東京都多摩教育事務所  
所長 小島 貴弘

## 副委員長

東京都多摩教育事務所  
指導課長 加藤 治紀

## 部会長

府中市立府中第十小学校  
校長 草刈 あずさ

## 部会長

東久留米市立久留米中学校  
校長 木下 信久

## 特別委員

青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授 北澤 武

## 委員

### 小学校

〈実践事例 1〉	国語	小平市立鈴木小学校	主任教諭	大畑 裕一
〈実践事例 2〉	社会	府中市立武蔵台小学校	主任教諭	近野 千尋
〈実践事例 3〉	算数	狛江市立狛江第五小学校	主任教諭	原 雄介
〈実践事例 4〉	理科	小金井市立緑小学校	主任教諭	山崎 晃
〈実践事例 5〉	音楽	西東京市立本町小学校	主任教諭	吉野 修平
〈実践事例 6〉	図画工作	福生市立福生第六小学校	主任教諭	菅原 加奈子
〈実践事例 7〉	体育	羽村市立富士見小学校	教諭	谷津 智久
〈実践事例 8〉	外国語	東久留米市立第五小学校	主任教諭	高橋 光世
〈実践事例 9〉	特別活動	立川市立第五小学校	主任教諭	細貝 俊稀

### 中学校

〈実践事例 10〉	国語	福生市立福生第一中学校	主任教諭	藤岡 雄祐
〈実践事例 11〉	社会	八王子市立上柚木中学校	主任教諭	田代 憲一
〈実践事例 12〉	数学	東村山市立東村山第一中学校	主幹教諭	橋詰 貴
〈実践事例 13〉	理科	日野市立日野第一中学校	主任教諭	加藤 裕保
〈実践事例 14〉	音楽	武蔵野市立第四中学校	教諭	武藤 航平
〈実践事例 15〉	美術	瑞穂町立瑞穂第二中学校	主幹教諭	高橋 佳来
〈実践事例 16〉	保健体育	町田市立山崎中学校	主幹教諭	菅 新太郎
〈実践事例 17〉	外国語	清瀬市立清瀬中学校	主任教諭	福田 真由
〈実践事例 18〉	特別の教科 道徳	小平市立花小金井南中学校	主任教諭	武田 彩

## 事務局

### 東京都多摩教育事務所 指導課

統括指導主事	野村 宏行
指導主事	川島 征也
指導主事	依田 真紀
指導主事	北原 祐希
指導主事	溝口 直哉
指導主事(併任)	嶺井 勇哉
指導主事(併任)	野田 豊
教育専門員	松本 信之
教育専門員	辻 泰成
教育専門員	小林 正隆
学校教育指導専門員	富田 広
学校教育指導専門員	渡部 公威

### 東京都多摩教育事務所

第31次計画(通算第52年次)報告書

令和8年2月

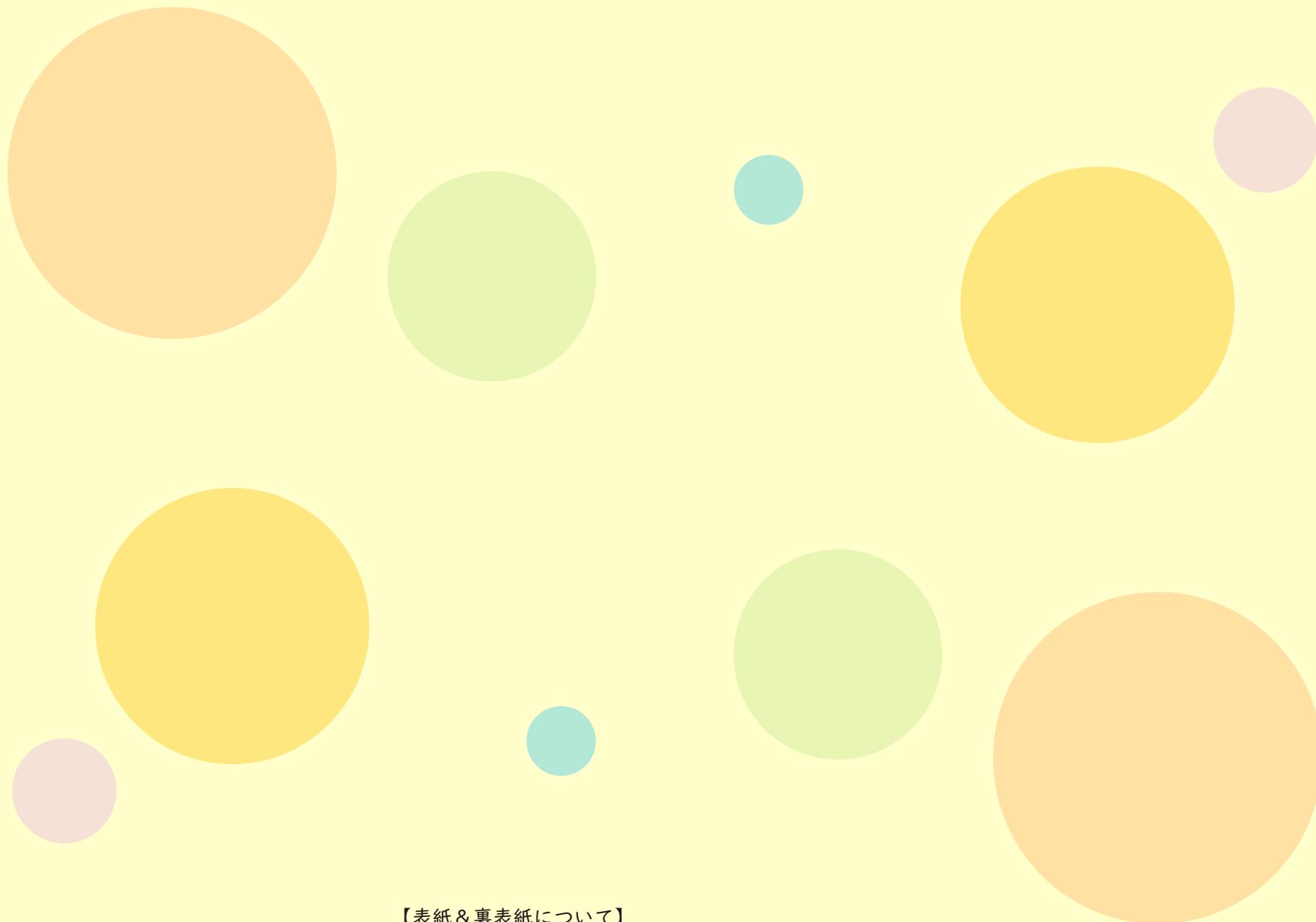
編集・発行 東京都多摩教育事務所指導課

〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3

TEL 042-524-7222

印刷 有限会社 くらう工房

登録番号 7(2)



【表紙&裏表紙について】

円はどのような図形でしょうか。異なる大きさの円はどのような関係でしょうか。同じ大きさの円の中心を結ぶとどのような図形になるでしょうか。表紙&裏表紙のデザインに込めたメッセージのヒントは、報告書の中にあります。